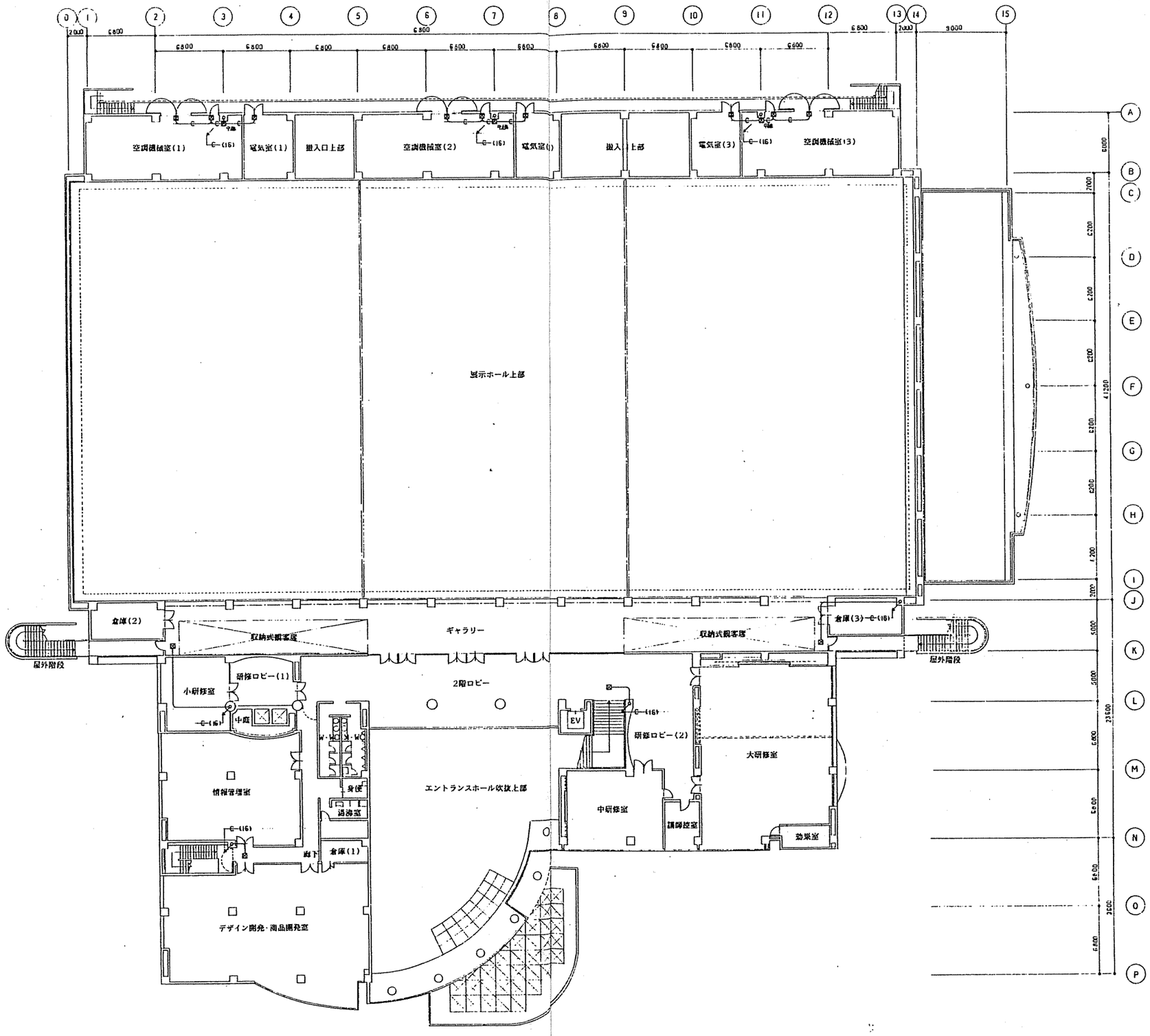
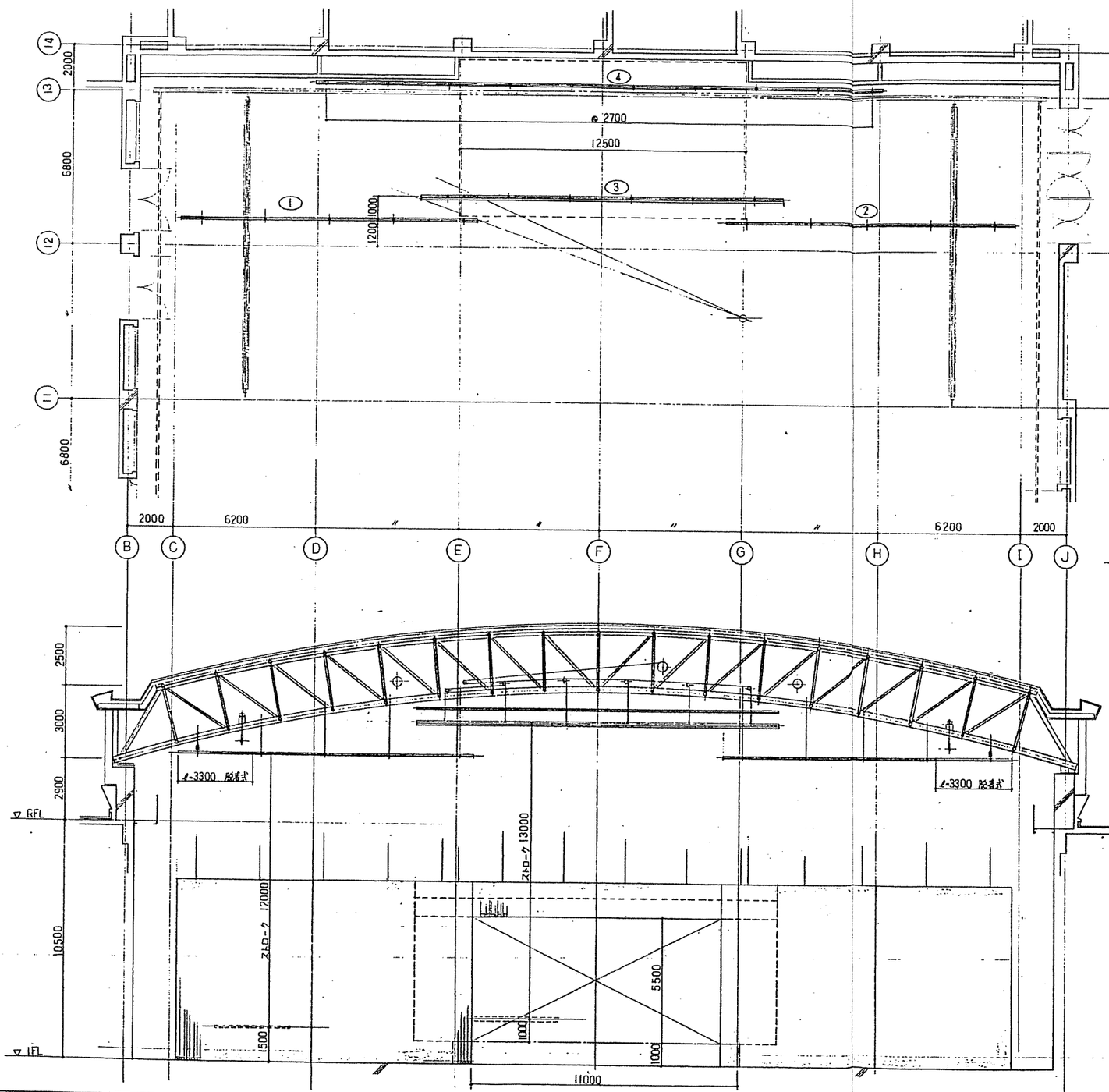
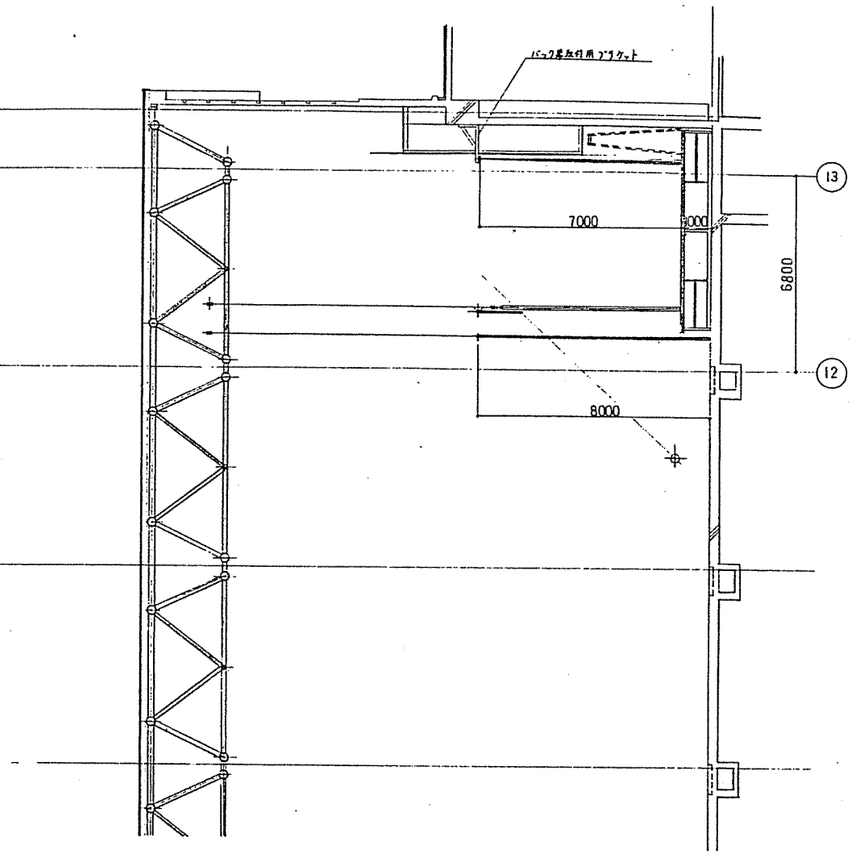


株式会社佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事（追加工事）		
図面名 警備用配管設備 2階平面図		縮尺 1/200	
図面	担当	作図	作成日
一級建築士事務所 建設省許可 東京都知事 1033号 建設コンサルタント 登録番号 第63-843号			図面番号 6





吊物仕様

NO	名称	駆動方式	寸法	速度	動力	ワイヤ径×本数	自重	吊荷重	備考
1	袖幕 (1)	電動ワイヤ巻取式	13000	10M/min	0.75KW	ϕ_4 × 5点	60 KG	110 KG	4-3300ノミ脱着可
2	〃 (2)	〃	13000	〃	〃	ϕ_4 × 5点	60 KG	110 KG	〃
3	引割幕	〃 手動開閉式	16000	〃	1.5 KW	ϕ_4 × 6点	120 KG	130 KG	一文字幕共吊
4	バック幕	固定吊	24800	——	——	—— 10点	——	200 KG	取付ブラケット及パイプ・組立工事

注 1. 主ブロック垂直搬出装置付(電気式)トラス
2. 使用時以外・幕ハ取外シテオク

幕地仕様

NO	名称	寸法 (W×H)	枚数	ヒダ数	材質	備考
1	袖幕 (1)	6800 × 8000	2	2	別珍貫ハ	上部テープ黒 P-300
2	〃 (2)	6800 × 8000	2	2	〃	〃 〃
3	引割幕	8300 × 6300	2	2	〃	〃 〃
	一文字幕	16600 × 1500	1	2	〃	〃 〃
4	バック幕	6700 × 7000	2	2	〃	〃 〃
	〃	6150 × 8000	2	2	〃	〃 〃

別途工事

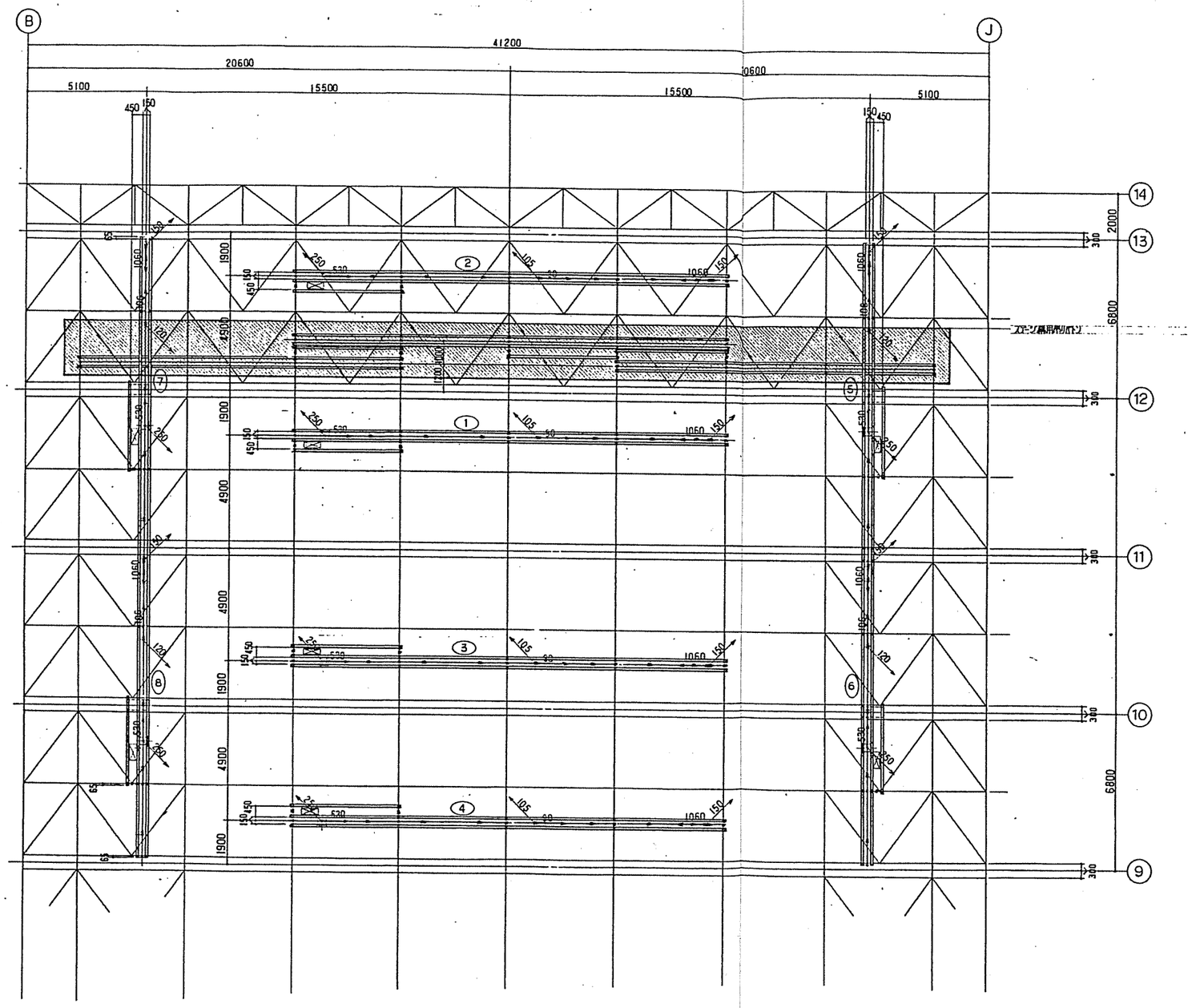
1. 1次側電源引込工事
2. バック幕取付用ブラケット及パイプ
3. フトウ相関及キャットウォーク工事
4. 舞台上部まわり光料金及足場

訂正	備考
93・2・3 改正	

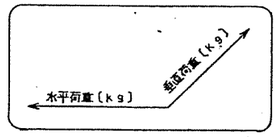
株式会社佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重県県民センター新築工事設計図(追加工事)		
図面名称 展示ホール・ステージ幕仕様・平面図・断面図		縮尺 1/100	
担当	監	作成	作成日
協力会社			図面番号 7

品番	品名	材質	単位数量	備考



荷重表 （静荷重）



本図荷重にはブドウ棚自重は含まない
記入なき吊点部も本図に準ずる

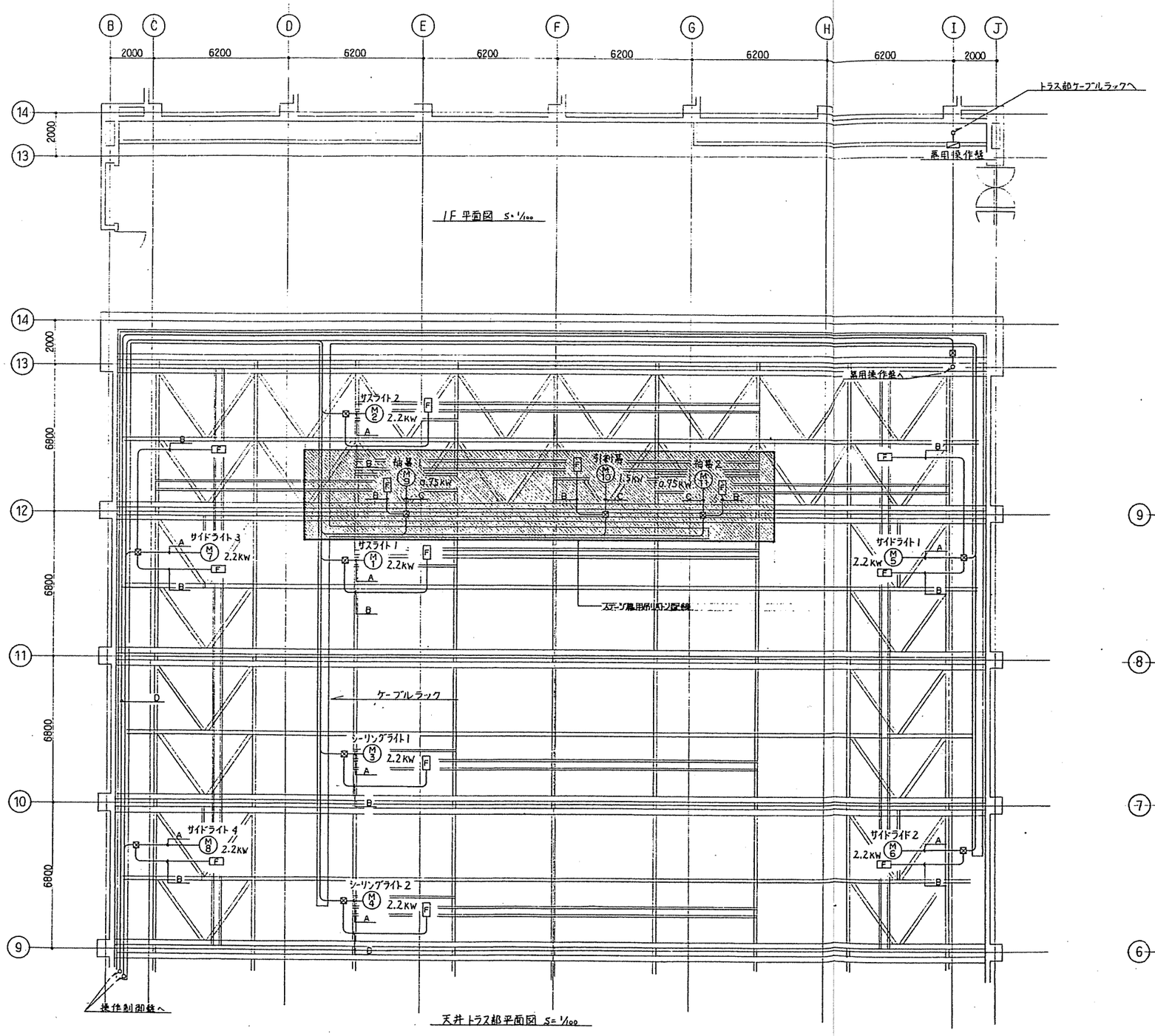
訂正

備考

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図（追加工事）		
図面名 展示ホールステージ幕平面詳細図	縮尺 1/100		
担当	図面	作図	作成日
一級建築士事務所 佐藤総合計画 東京都千代田区麹町1-3-3 東京コンサルタント 東京都千代田区麹町1-3-3			通し番号 8

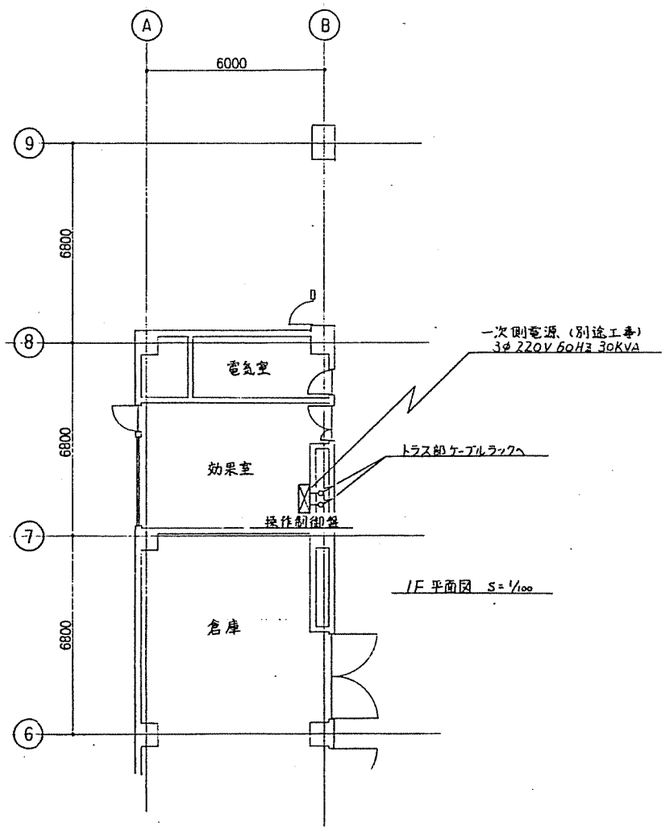
品番	品名	材質	単位数量	備考



天井トラス部平面図 S=1/100

配管配線は下記とする。

A CV3.5°-4c (25)・CVV1.25°-8c (25)
B CVV1.25°-2c (19)
C CV2°-4c (25)
D VCTF0.75°-30c (39)



1F 平面図 S=1/100

1F 平面図 S=1/100

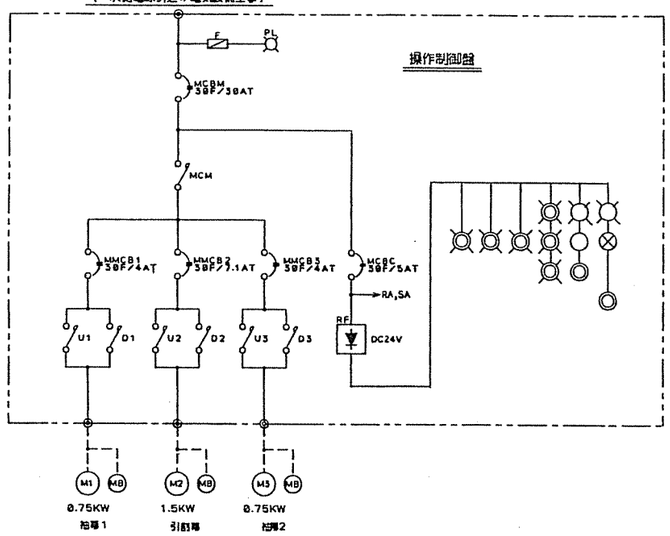
訂正

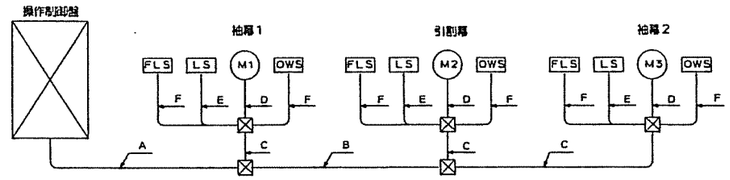
備考

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重県総合文化センター新築工事設計図（追加工事）		
図面名 展示ホールステージ幕昇降バトン配線図		縮尺 1/100	
図面	図	作図	作成日
株式会社佐藤総合計画 東京都渋谷区 東京都知事 第10333号	佐藤コンサルタント 建設部号 第63-842号	日本ビルディング株式会社	図面番号 9

3φ220V60Hz5KVA
(一次側電源引込み電気設備工事)



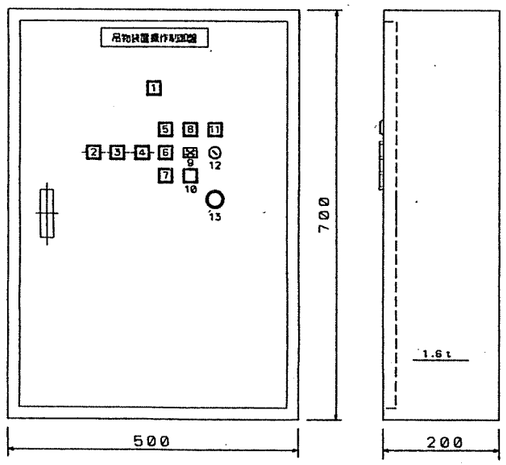


配管配線系統図

図中のA～Gの内容は、次の通りとする。

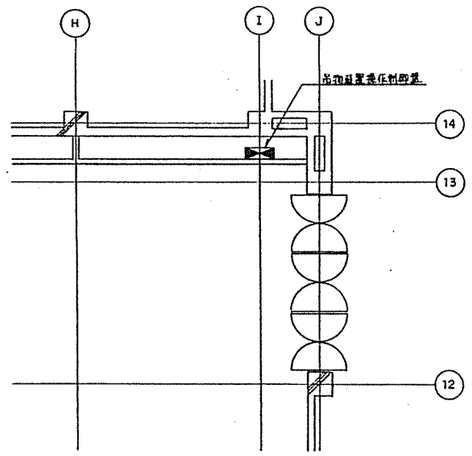
A ―――	(2° X3, E-2°, 1.25° X8 (51)
B ―――	(2° X3, E-2°, 1.25° X8 (39)
C ―――	(2° X3, E-2°, 1.25° X8 (31)
D ―――	2° X3, E-2° (19)
E ―――	1.25° X6 (19)
F ―――	1.25° X2 (19)

注) 二次側配線配管工事は、電気設備工事とする。



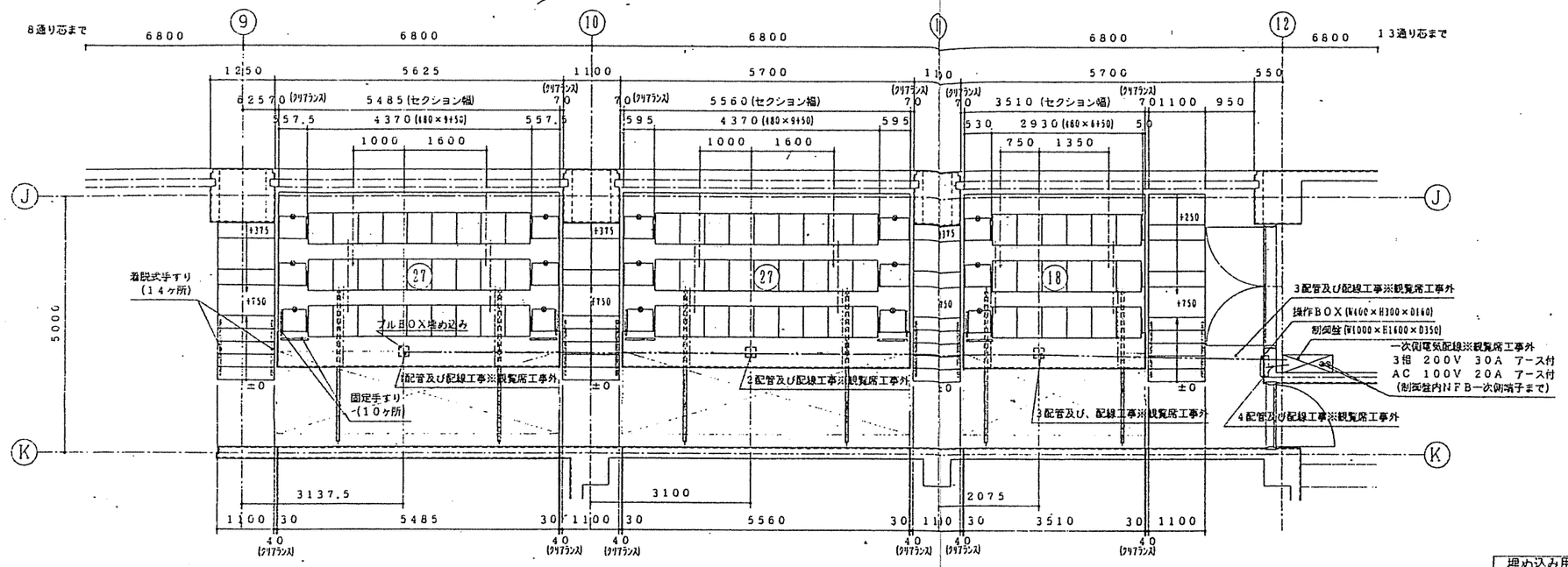
名称表
1 主電源
2 袖幕1
3 引割幕
4 引割幕2
5 ファイナルリミット
6 昇
7 降
8 過荷重
9 ブザー
10ブザーOFF
11電源
12キースイッチ
13非常停止

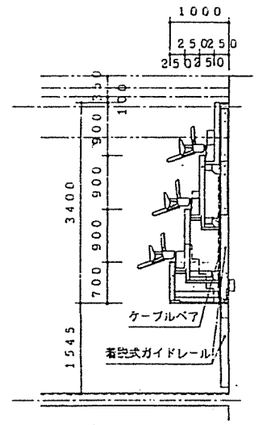
操作制御盤外形図

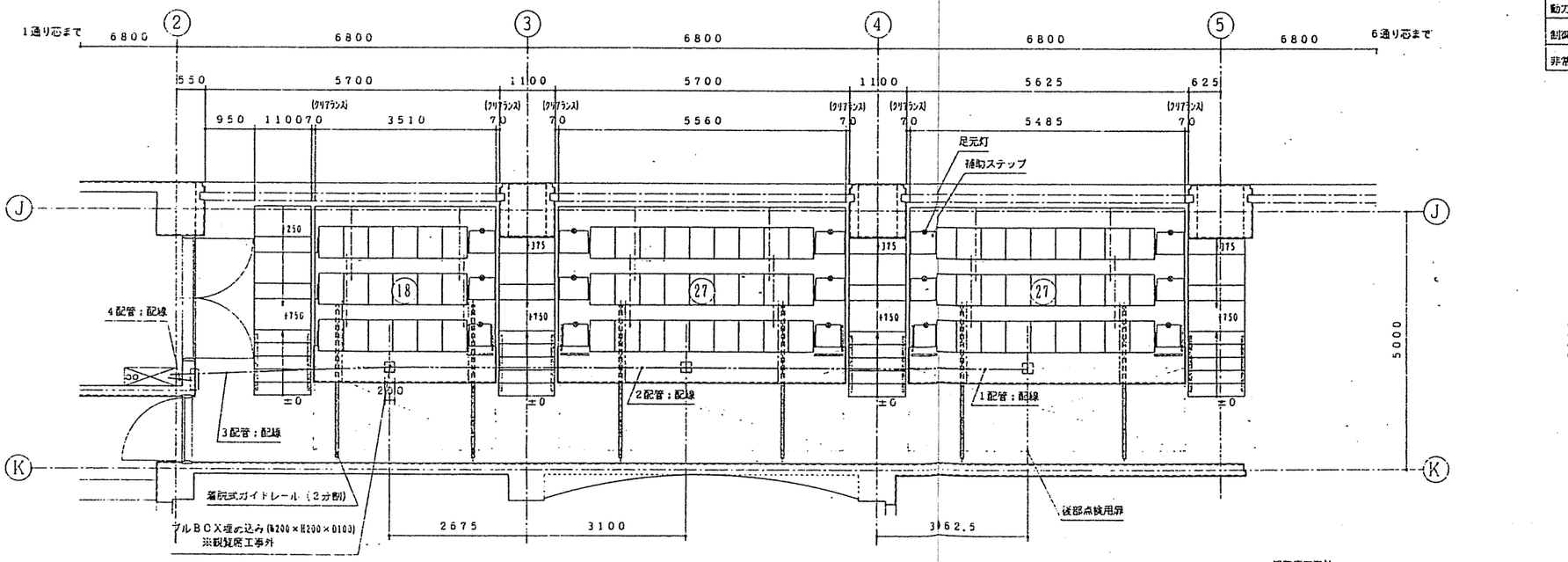


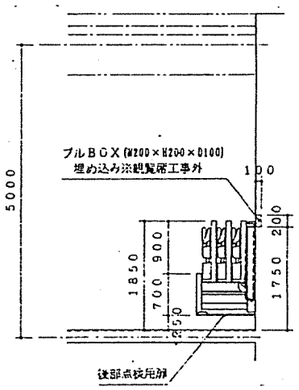
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図(追加工事)		
図面名 展示ホールステージ幕 系統図・制御盤断面図		縮尺	
担当	作図	作成日	通し番号 10









埋め込み用配管及び配線 ※観覧席工事外

配線区分 / 種類	1	2	3	4
動力線	IV φ2×18	IV φ2×36	IV φ2×54	
制御線	IV φ1.15×20	IV φ1.15×40	IV φ1.15×60	IV φ1.15×25
非常灯線	IV φ2× 3	IV φ2× 6	IV φ2× 9	

移動観覧席 AHP-A8105（前方移動式） 6台
総席数 ：144席
前後間隔 ：900mm
イス芯々 ：480mm
段差 ：250mm

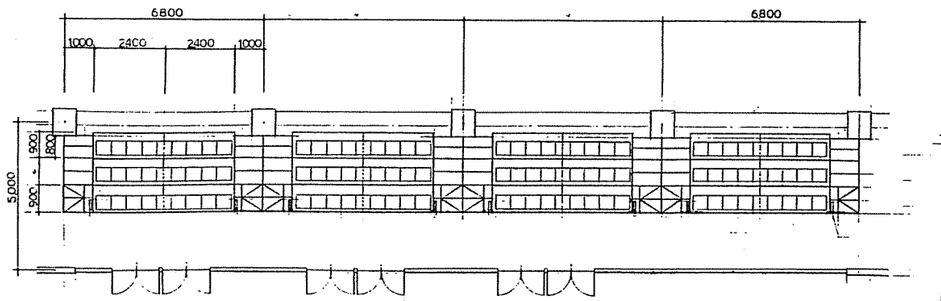
オプション
移動ステップ 2分割 8台
リヤパネル
固定式ガイドパネル 補助段のみ
着脱式ガイドレール 2分割
壁面固定式操作BOX 2ヶ所
着脱式手すり 14ヶ所
固定手すり 10ヶ所

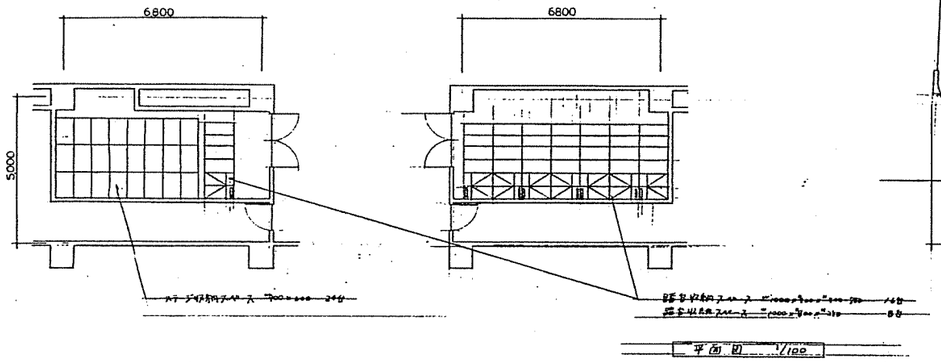
観覧席工事外
一次側電気配線 制御盤内NFB端子まで
3相 200V 30A アース付
AC 100V 20A アース付
制御盤←→プルBOX 配管及び配線工事
制御盤←→操作BOX 配管及び配線工事
プルBOX（床）：操作BOX（壁）埋め込み工事
リヤパネル 表面仕上げ

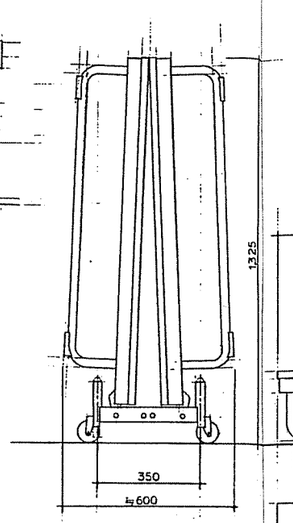
注意事項
設置階 ：2階 （激入強度保の事）
建築床仕上げ：重量物につき床強度が必要
（打合せが必要．）
床面アンカー固定可能なこと．

株式会社佐藤総合計画

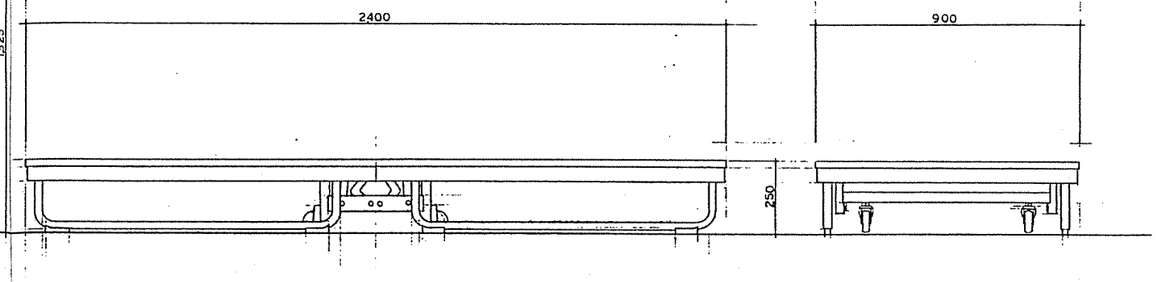
設計番号 JOB-1689	工事名称 三重県総合福祉センター新築工事設計図（追加工事）		
図面名 2階ギャラリー可動式観覧席特殊機構追加工事詳細図		縮尺 —	
担当	作図	日付	図面番号 11

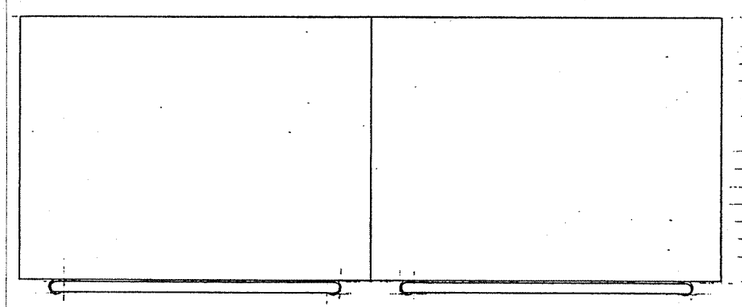




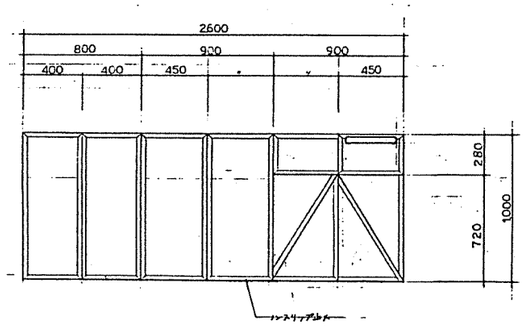


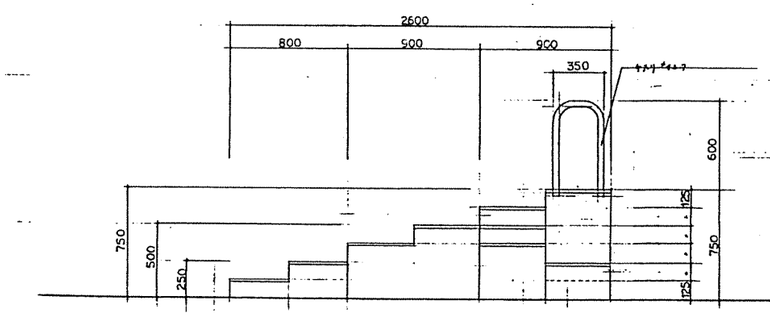
アイステージ(特)	H 750	8 台 (キズリ付)
	H 500	8 台
	H 250	8 台

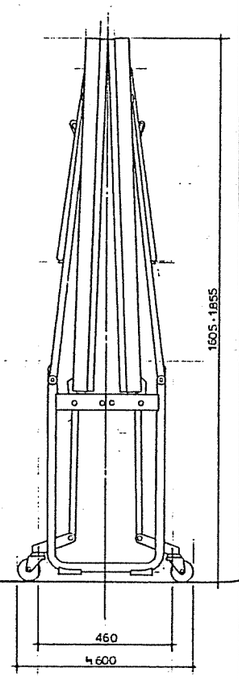




仕様	
甲板	t24 ラワン合板 表面ナラ分板化粧貼り
	アミノ酸樹脂クリヤー仕上
框枠	46×50×30 構材構造用角形鋼管
	t4×50×50 等辺山形鋼 メラミン樹脂焼付塗装仕上
脚部	23×28.6 構材構造用鋼管
	46×30×20 構材構造用角形鋼管
	メラミン樹脂焼付塗装仕上
リンク	t6 鋼板 22×19.1 構材構造用鋼管
	亜鉛黒メッキ仕上
脚端	ナイロン樹脂インジェクション成型
キャスター	75×75 ボールベアリング付合成ゴム自在車輪
テスリ	23×42.7・20×48.6 建築用鋼管
	10×32.2 構造用鋼管 t6×50 鋼板

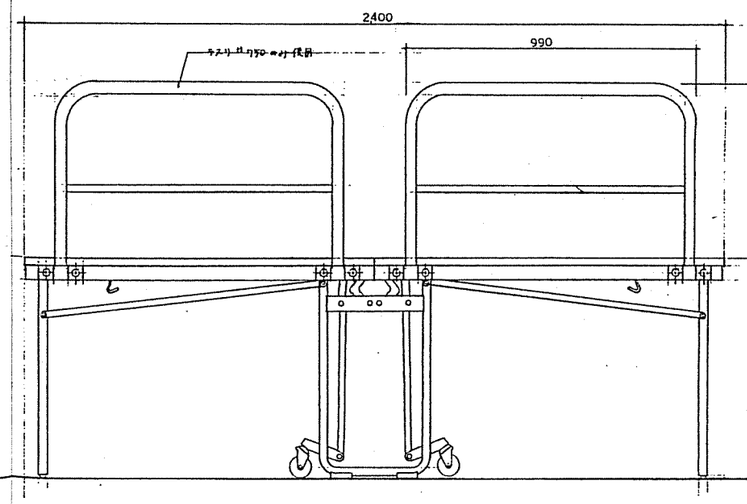


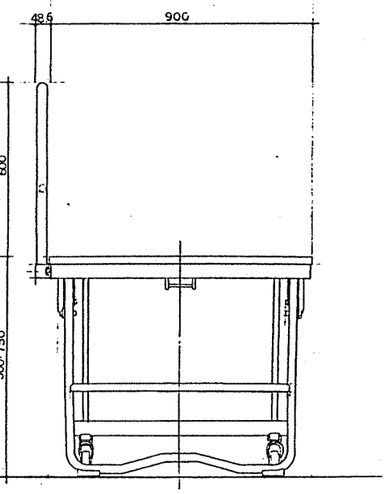




脚台	左側	4台
	右側	4台

脚台 製図 1/20

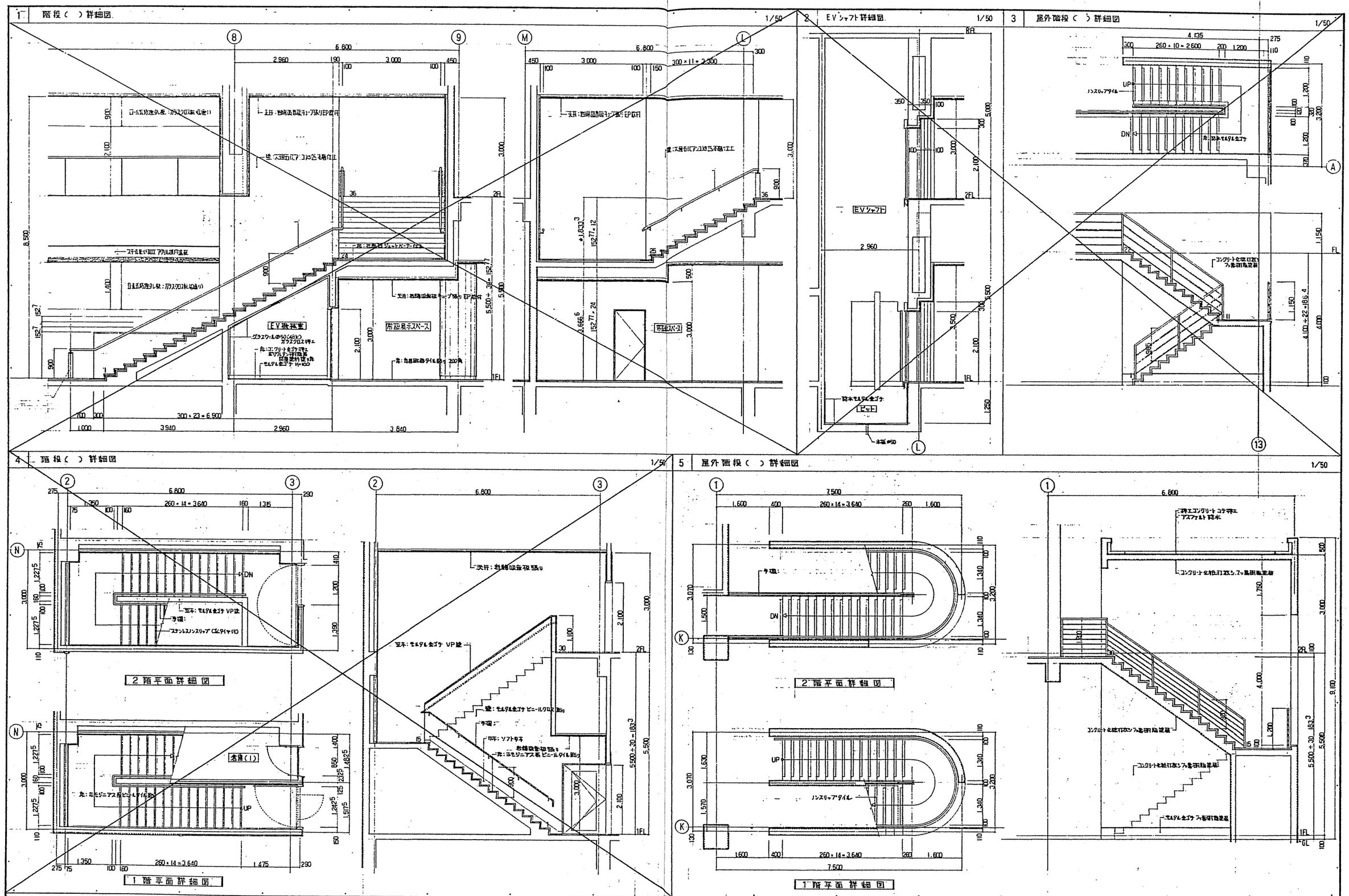




アイステージ 製図 1/10

株式会社 佐藤総合計画

設計番号	JOB-1689	工事名称	三重産業振興センター新築工事設計図（追加工事）
図面名	2階テラス可動式観客席詳細図		縮尺 1/10 20
図面	営	構	設	電	作	営	日付	番号 12



株式会社 佐藤総合計画

設計番号	JOB-1689	工事名称	三重産業振興センター新築工事設計図(追加工事)
図面名	階段 詳細図	縮尺	1/50
担当		作成日	
図番	13		

鉄骨トラス工事特記仕様書

1 適用範囲

- 立体トラス鉄骨工事

2 構造形式

- 鋼製球形コネクター（グローブ）と軸芯方向スライドの特殊ボルトを持つ部材を使用した立体トラスである。

3 構造の概要

- 本工事の架構は、トラス部材と節点の球状のグローブにより組み立てる立体トラスである。
  部材の端末にはボルトが組み込まれており、そのボルトの外側には、ナット状のワッパーがはまっている。このワッパーを回転させると、回転力がボルトに伝達される様、ピンで連結されている。従って、節点組立後の状態は、部材とグローブの間にワッパーが介在しており、それらを継ぎ合わせるボルトが内在している。（図1参照）
- 部材の引張力はボルトによって、又圧縮力はワッパーによってグローブに伝えられる。

4 用語の定義

（本設計に使用する固有の名称を次のように定める。）

- グローブ
  トラスを構成する部材の節点に使用する球形コネクター。
- 支承グローブ
  トラスの支持点に使用するグローブで、ベースプレート、リブプレート等を組み合わせたもの。
- 部材
  パイプにスリーブを溶接し、ボルト、ワッパー等の部品を組み込んだ最終完成品。
- パイプ
  部材本体の中軸をつかさどる鋼管。
- スリーブ
  パイプ端末に溶接される部品でボルトとワッパーに働く力を部材に伝える役割を果たす部品。
- ボルト
  ピン孔を持つ特殊ボルト。
- ワッパー
  ナット形をした軸状の部品で打込みピンを介してボルトに回転を与えるためのスライドピン孔を有する。
- 打込みピン
  ワッパーの回転をボルトに伝えるもので、ワッパーとボルトを貫通結合させる部品。
- 棒状グローブ
  主としてトラスの支持点に使用するグローブで、円筒状の鋼材の頂部のみを球状加工したもの。
- 付加孔
  グローブのボルト孔でトラス部材が取付（以外のものを付加孔という。この孔を利用して母屋受金物やその他金物を取付ける。
  原則として全てのグローブは付加孔を有する。

5 材料

- グローブ

5T		
JIS-G3106 相当品	溶接構造用圧延鋼材	SM490A相当品
JIS-G4051	機械構造用炭素鋼鋼材	S45C
9T		
JIS-G4105	クロムモリブデン鋼鋼材	SCM435 SCM440

- パイプ

建築構造用		
JIS-G3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400

- スリーブ

JIS-G3101	一般構造用圧延鋼鋼材	SS400

- ボルト

9T		
JIS-G4105	クロムモリブデン鋼鋼材	SCM435
JIS-G4103	ニッケル クロムモリブデン鋼鋼材	SNCM439

- ワッパー

7T		
JIS-G4051	機械構造用炭素鋼鋼材	S45C

- 打込みピン

JIS-G4314	ばね用ステンレス鋼線	SUS304WPB
JIS-G4105	クロムモリブデン鋼鋼材	SCM435

6 防錆処理

- 支承グローブ

CZコート		
エポキシ樹脂プライマー	回	（現場塗装）
ウレタン用中塗	回	（現場塗装）
ウレタン系上塗	回	（現場塗装）

- グローブ

CZコート		
エポキシ樹脂プライマー	回	（現場塗装）
ウレタン用中塗	回	（現場塗装）
ウレタン系上塗	回	（現場塗装）

- パイプ

素地調整 1種		
亜鉛末ショッププライマー	回	
エポキシ樹脂プライマー	回	
ウレタン用中塗	回	
ウレタン系上塗	回	

- ワッパー

CZコート		
エポキシ樹脂プライマー	回	（現場塗装）
ウレタン用中塗	回	（現場塗装）
ウレタン系上塗	回	（現場塗装）

- ボルト

CZコート		
ウレタン用中塗	回	（現場塗装）
ウレタン系上塗	回	（現場塗装）

※特記外は工場塗装とする。

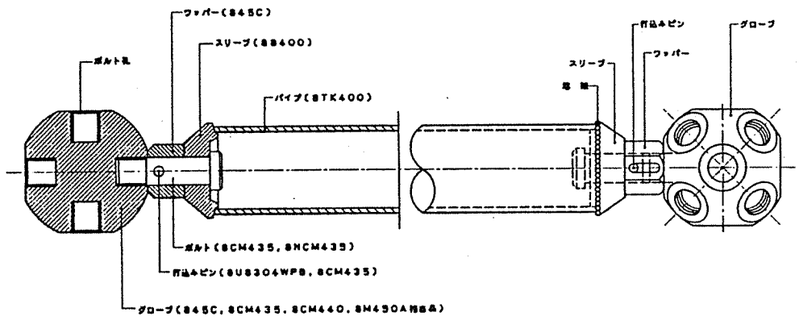
上記鉄骨部は現場組立完了后に改めて防錆塗料の欠陥部をタッチアップする。

7 施工計画（立体トラス建方計画）

- 施工にあたっては、事前に立体トラスの架構を始めようとする現場を調査し建方時の現場の状況を予測して事前に、建方方針を計画しなければならない。
  又、部材の組立ならびに組み上ったトラスの結合はいかなる場合も、部材の全部又は一部に無理な応力が働かないように計画しなければならない。

8 其の他

- 鉄骨トラスに取り付（あらゆる2次部材は節点に取り付ける事を原則とする。
- 其の他図面に明示なき事項については監督員の指示に従い誠実に施工する事。



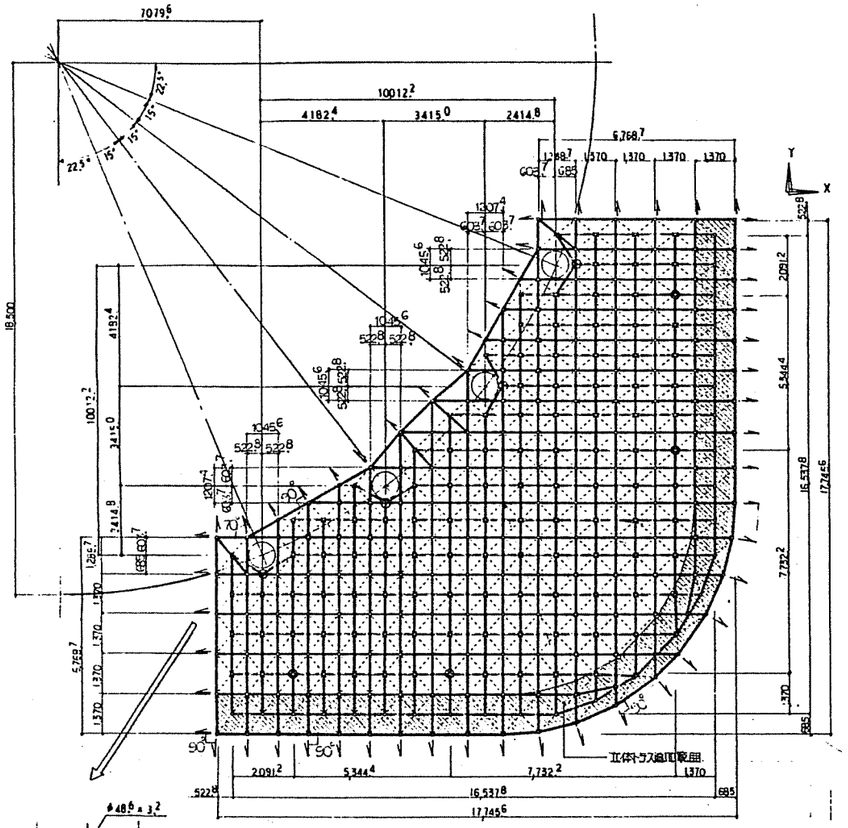
（断面図）　　（巻図）

図1。立体トラス接合部詳細図

日付	記号	訂正者	承認	日付	記号	訂正者	承認
▽ /	-			▽ /	-		
▽ /	-			▽ /	-		
▽ /	-			▽ /	-		
▽ /	-			▽ /	-		

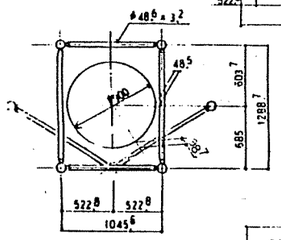
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新館工事設計図（追加二号）		
図面名称 エントランスキャノピー立体トラス仕様書		縮尺	
作図	検図	作成日	通し番号 14

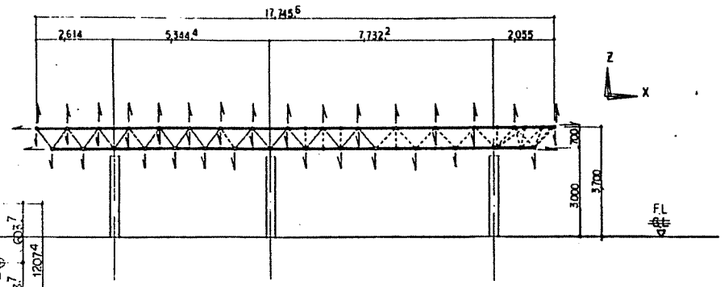


トラス伏図　1:100

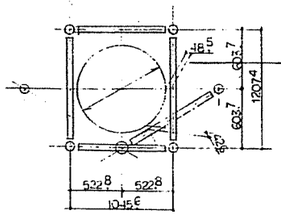
※上弦材トラス割付寸法は別図参照のこと。
※下弦材トラス水平の付加孔は別図参照のこと



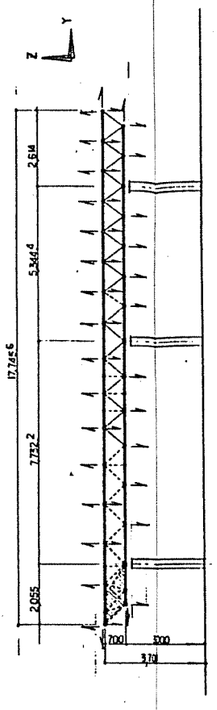
柱まわり詳細図 1:30



立面図　1:100



柱まわり詳細図 1:30



立面図　1:100

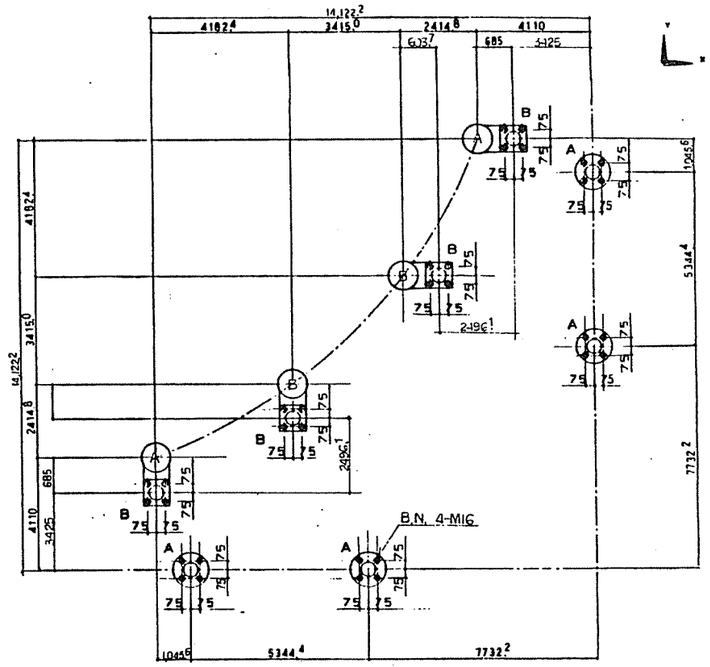
特記事項	
上弦材	
斜材	
下弦材	
グローブ	支点
支承部	

すべてのトラスのサイズはパイプ径で表記する。

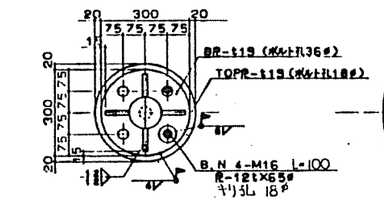
特記事項

1．特記を除き，付加孔はトラス勾配に対して直角，又は平行とする。
2．上弦グローブは，上下に付加孔をあける。
3．下弦グローブは，下方に付加孔をあける。
4．外周部は，上下弦グローブ共トラスに対して水平外向きにあける。

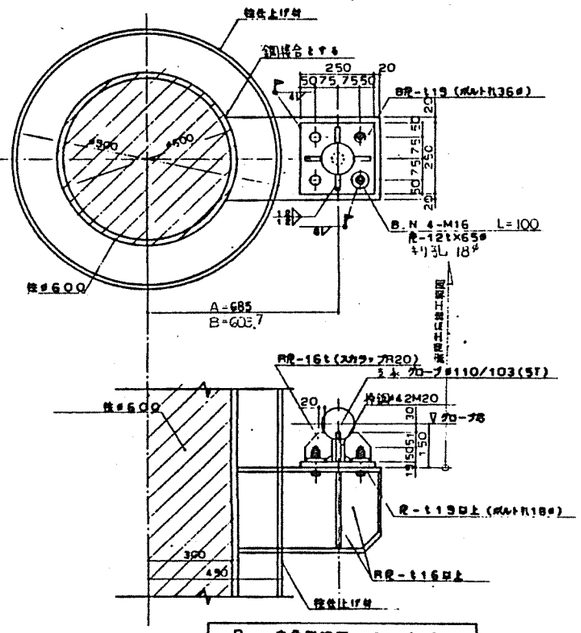
ツメボルト H20



トラスアンカー伏図 S=1:100



A　支承詳細図　S=1:10

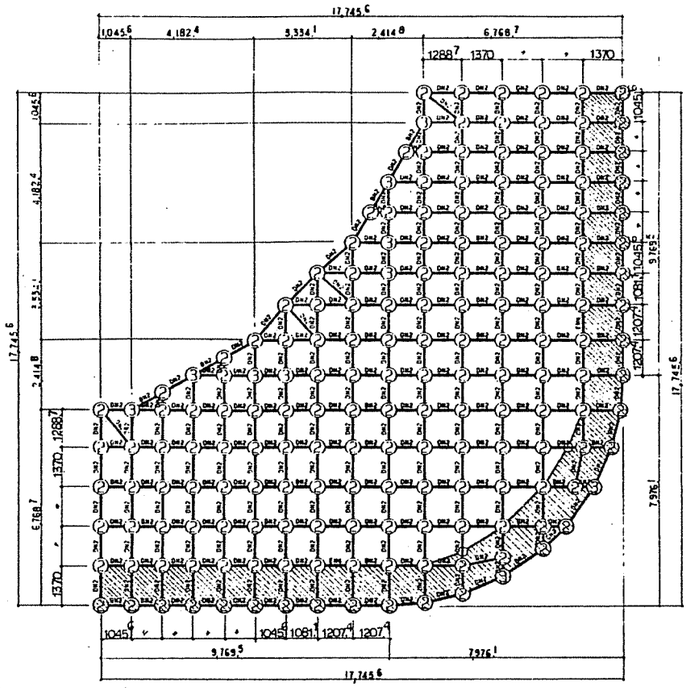


B　支承詳細図　S=1:10

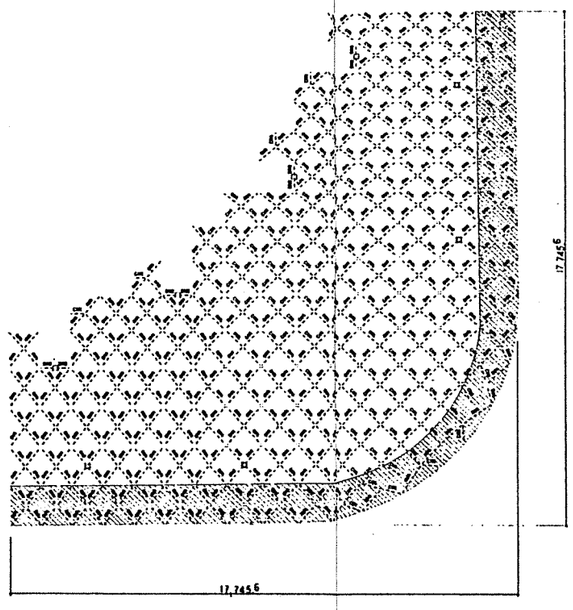
日付	記号	日付	記号
10.15	GL → FL に変更		

株式会社佐藤総合計画

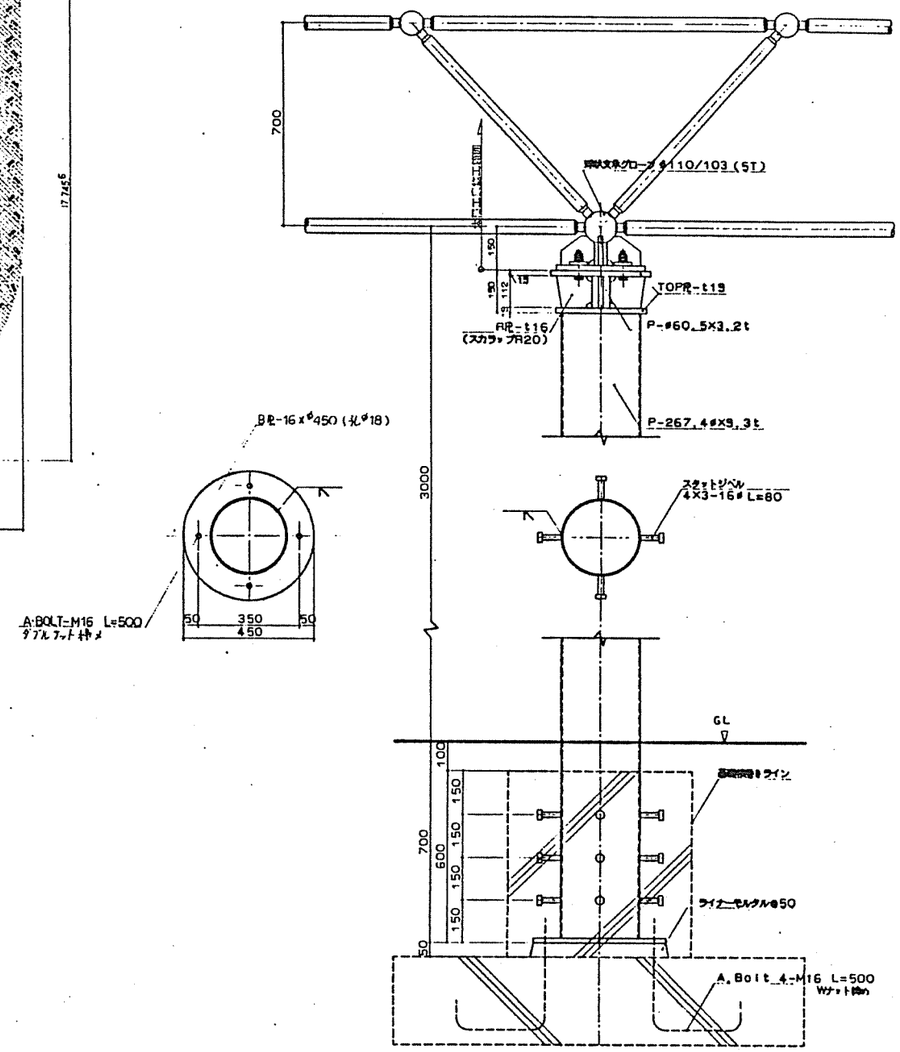
設計番号	JOB-1689
工事名称	三重県医療福祉センター新築工事設計図（追加工事）
図面名称	エントランスキャノピー立体トラス伏図・立面図、その他詳細
縮尺	
図番	15



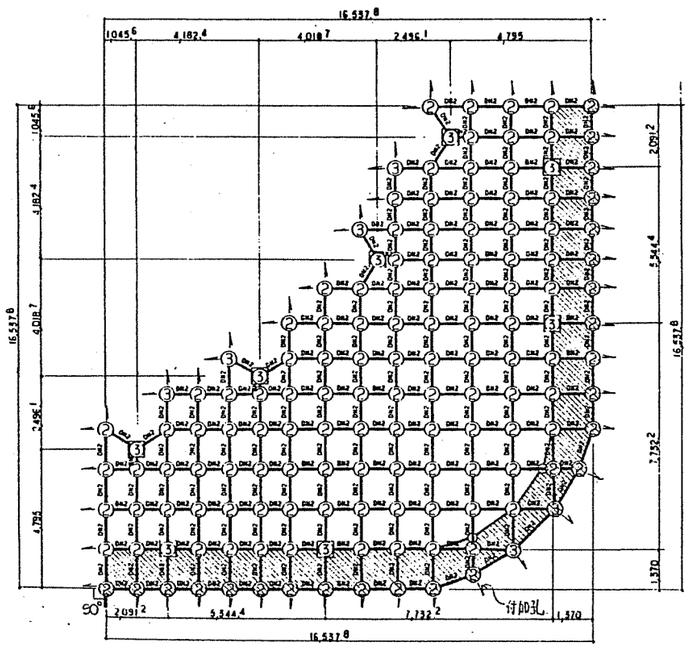
上弦材部材配置図　1:100



斜材部材配置図　1:100



柱頭，柱脚詳細図　S=1:10



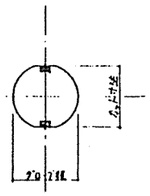
下弦材部材配置図　1:100

パイプリスト

記号	パイプサイズ	ボルト
BN2	φ34.0 x 2.3	M12
CN4	φ42.7 x 2.3	M16
DN2	φ48.6 x 3.2	M16
EN4	φ60.5 x 3.2	M20

グローブリスト

記号	グローブ径/カットラン	鋼種	備考
②	85 / 78	9T	
④	110 / 105	9T	
③	110 / 105	5T	2本組

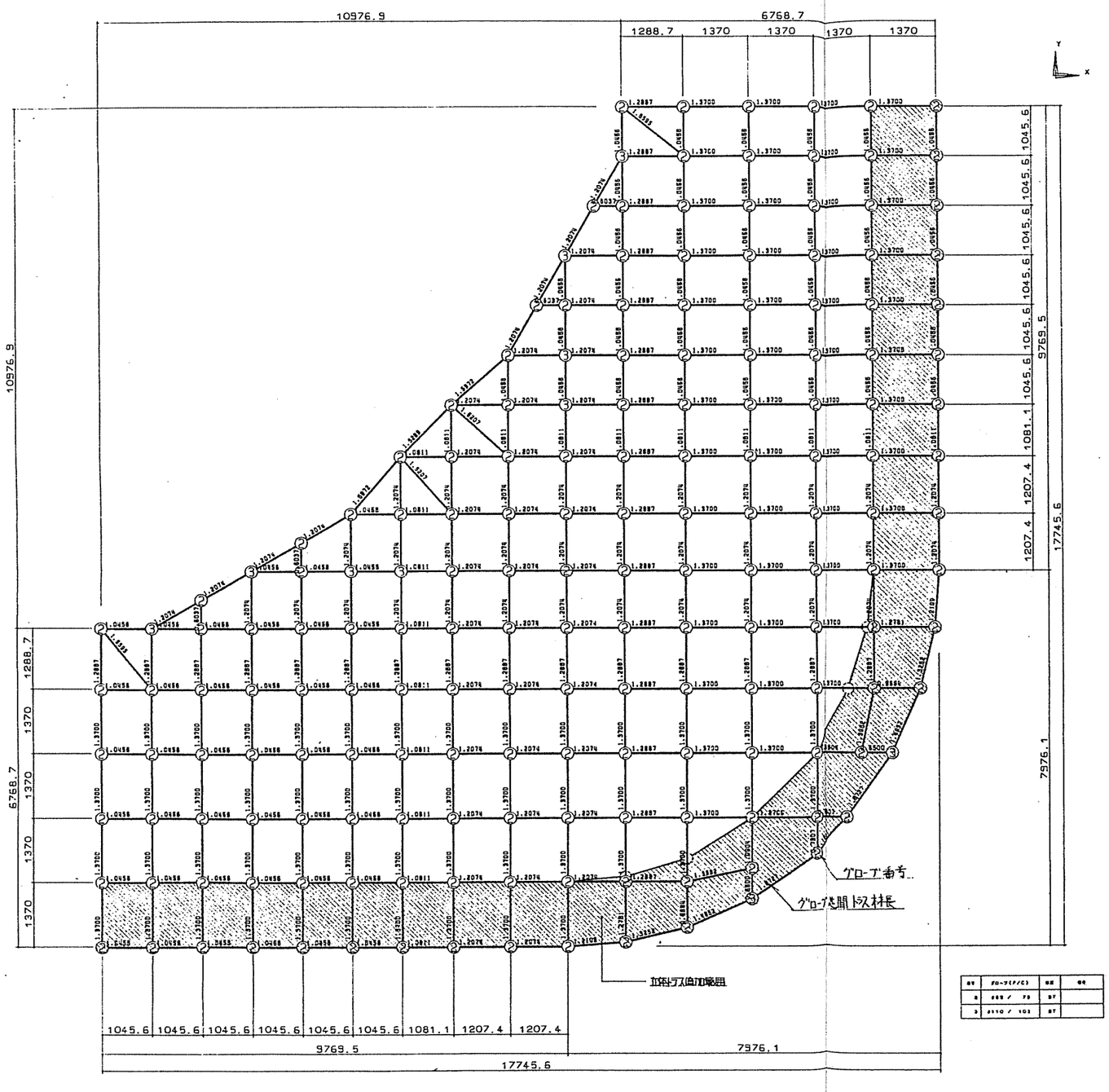


Bm	記号	日付	名称	Bm	記号	日付	名称
▽	/ -			▽	/ -		
▽	/ -			▽	/ -		
▽	/ -			▽	/ -		
▽	/ -			▽	/ -		

株式会社 佐藤総合計画

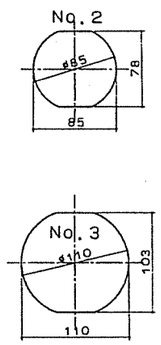
図面番号 JOB-1689	工事名称 三重県産廃センター新築工事設計図（追加工事）		
図面名称 エントランスキャノピー工作トラス部材配置図		縮尺	
担当	作図	検図	作成	作成日	図面番号 16

一級建築士事務所 東京都知事 第63-843号



上弦材 トラス伏図 S=1:50

※上弦材トラス材長，グローブ径を示す．



グローブ加工図 S=1:3

記号	グローブ(P/C)	材質	備考
2	φ85 / 78	ST	
3	φ110 / 103	ST	

日付	記号	訂正者	承認者		
▽ /	-			▽ /	-
▽ /	-			▽ /	-
▽ /	-			▽ /	-
▽ /	-			▽ /	-
▽ /	-			▽ /	-

鋼 材：STK400 STKR400 SS400　基 礎：Fc=180kg/cm²以上
鋼材名：　鋼材色：
塗 装：　－　－　溶接方：　横　田
塗装色：　（　）
中塗り：　田
上塗り：　田

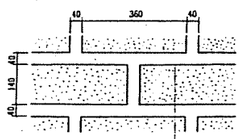
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689　工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図（追加工事）
図面名 エントランスキャノピー上弦トラス伏図
縮尺
図面 菅 無 作図 菅 検図 菅 作成日
名称番号 17
住所 三重県三重郡菰野町 佐藤総合計画 東京都渋谷区1033番 佐藤コンサルタント 佐藤総合計画 第03-843号 （旧ビル/旧ビル旧ビル旧ビル/旧ビル）

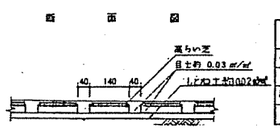
記号	名称	形状寸法 高さ(m)	形状寸法 目通り(m)	形状寸法 葉張り(m)	客土量(m³)	支柱	本数	備考
◯KE-K	ケヤキ 株立	10.0程度	1.5程度	5～10本立	8.864	LS－3D	1株	幹巻
◯KE	ケヤキ	6.0	0.40	3.0	0.642	MS－3A	~~29~~ 21本	〃
◯SO	ソメイヨシノ	4.0	0.20	1.8	0.247	〃	17〃	〃
◯KS	クスノキ	4.0	0.40	1.2	0.642	〃	8〃	〃
◯SR	シラカシ	5.0	0.40	1.8	0.642	〃	22〃	〃
◯AR	アラカシ	5.0	0.40	1.8	0.642	〃	26〃	〃
○K	キンモクセイ	2.5		0.9	0.124	MS－2B	37〃	
	ケヤキ	8.0	0.9	6.0	5.007	LS－3D	8本	幹巻
	ヒラドツツジ	0.4		0.4	0.008		10350株	8株/㎡
	三重サツキ	0.3		0.4	0.008		8380〃	8〃
	カンツバキ	0.4		0.4	0.008		6010〃	8〃
	キャラボク	0.4		0.4	0.008		1660〃	8〃
	カンツバキ	1.2		1.0	0.1087		80	
	芝張り	コウライシバ	70%張り				6233㎡	

張芝

平面図



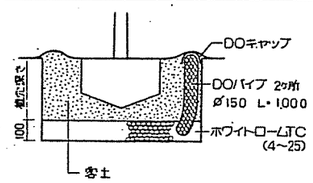
断面図



10m²当り

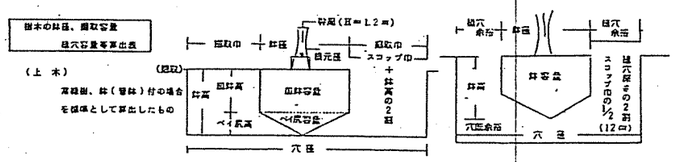
名称	形状寸法	数量	単位	摘要
高らい芝	張m²	7.00	m²	
砂	不良	0.500	m³	
苗	和	1.00	kg	
配合肥料	N P K 6:5:8	1.00	〃	

駐車場、歩道 土壌改良 69ヶ所



客土 1.0 m³当り混合

山砂	0.96 m³	
パーライト（黒より石系）	100 ℓ	
バーク堆肥	50 KG	
ウッドエース（23－2－0）	6.7 〃	
固型肥料（6－4－3）	0.7 〃	



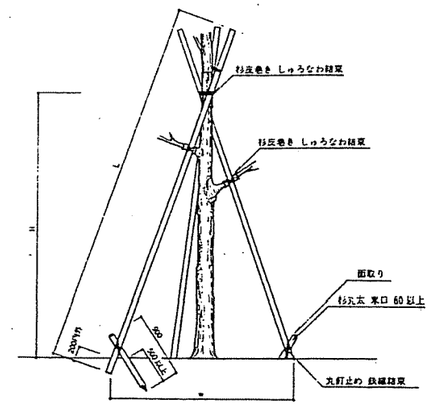
幹周	幹径	根元径	枝径	根鉢高	ベタ底高	枝高	根鉢容量	根鉢容量ベタ底	全根鉢容量	根取巾	根穴深	根上土量	根穴容量	穴径	根穴深	根穴容量	根穴容量(上)員	根上土
cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	m³	m³	cm	m³	m³	cm	cm	cm	cm	m³	m³
9	2.9	4.4	30	14	8	22	0.0099	0.0019	0.012	28	0.128	0.116	18	66	8	30	0.103	0.091	0.012
12	3.8	5.7	35	16	9	25	0.0154	0.0029	0.018	29	0.170	0.152	19	73	9	34	0.142	0.124	0.018
15	4.8	7.2	41	18	10	28	0.0235	0.0044	0.028	30	0.224	0.196	19	79	9	37	0.181	0.153	0.028
18	5.7	8.6	46	20	12	32	0.0332	0.0066	0.040	30	0.282	0.242	20	86	9	41	0.238	0.198	0.040
20	6.4	9.6	50	22	13	35	0.0432	0.0085	0.052	31	0.345	0.293	21	92	10	45	0.299	0.247	0.052
25	8.0	12.0	60	26	15	41	0.0735	0.0141	0.088	32	0.495	0.407	22	104	10	51	0.433	0.345	0.088
30	9.6	14.4	70	29	18	47	0.1115	0.0231	0.135	33	0.682	0.547	24	118	11	58	0.634	0.499	0.135
35	11.1	16.7	79	33	20	53	0.1617	0.0327	0.194	35	0.924	0.730	25	129	11	64	0.836	0.642	0.194
40	14.3	21.5	98	40	25	65	0.3016	0.0628	0.364	37	1.510	1.146	28	154	13	78	1.452	1.088	0.364
50	16.1	28.7	127	51	32	83	0.6457	0.1351	0.781	41	2.846	2.065	31	189	14	97	2.720	1.939	0.781
75	23.9	35.9	156	61	39	100	1.1653	0.2483	1.414	44	4.674	3.260	35	226	16	116	4.651	3.237	1.414
90	28.7	43.1	184	72	46	118	1.9135	0.4075	2.321	48	7.252	4.941	39	262	18	136	7.328	5.007	2.321

幹周	幹径	枝径	根元径	根鉢高	根鉢容量	根鉢容量ベタ底	全根鉢容量	根取巾	根穴深	根穴容量	根穴容量(上)員	根上土量	根穴容量	穴径	根穴深	根穴容量	根穴容量(上)員	根上土量
算定式	幹周×1.14	幹径×1.5	24＋(根元径－3)×4	12＋(根元径－3)×1.5	枝径×4	根鉢高×根鉢容量	根鉢容量×0.785×根鉢高	根鉢容量×0.785×ベタ底高/3	根鉢容量＋ベタ底容量	24＋枝高×0.2	根穴深×0.785×根穴容量	根穴深×0.785×全根鉢容量	12＋根穴深×0.2	2.5×根穴深＋枝径	61＋枝高×0.1	根穴容量×根鉢容量	根穴容量×0.785×根穴深	根穴容量－根鉢容量
30			15.0			10			0.0016	26	0.0352	0.0334		25		20	0.0096	0.0080	0.0016
50			17.0			12			0.0027	25	0.0448	0.0421		30		23	0.0162	0.0135	0.0027
80			21.0			14			0.0046	27	0.0618	0.0570		37		26	0.0279	0.0231	0.0046
100			23.0			16			0.0066	27	0.0745	0.0679		41		28	0.0359	0.0303	0.0056
150			29.0			21			0.0139	28	0.1191	0.1052		53		34	0.0750	0.0611	0.0139
200			35.0			25			0.0240	29	0.1697	0.1457		65		40	0.1327	0.1087	0.0240

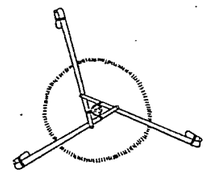
（下木）根鉢の場合を標準として算出したもの

※ 幹周150は株径2.5m 根鉢高1.0mで計算。　H=2.5mは幹周12mを使用。

三脚長丸太支柱　LS－3



立面図

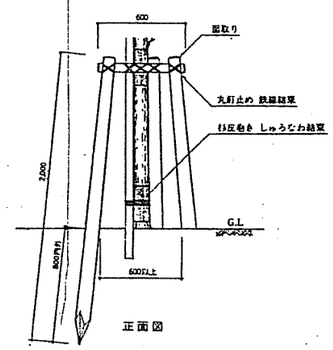


平面図(独立)

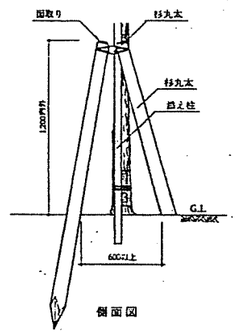
寸法表

記号	丸太	L	W
LS－3A	杉丸太 末口 30	4,000	2,000
LS－3B	杉丸太 末口 40	5,000	2,500
LS－3C	杉丸太 末口 40	6,000	3,000
LS－3D	杉丸太 末口 50	8,000	4,000

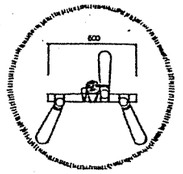
三脚鳥居支柱　MS－3



正面図



側面図

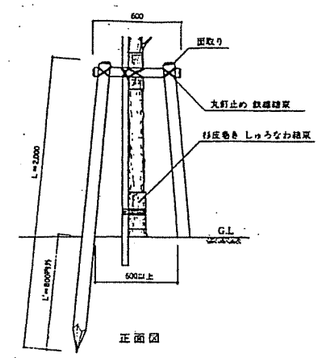


平面図

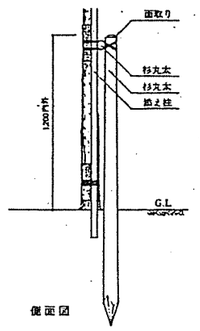
寸法表

MS－3A	杉丸太 末口 60 L=3,000 添え柱なし
MS－3B	杉丸太 末口 60 L=2,000 杉丸太添え柱 ℓ=4,000付 末口20
MS－3C	杉丸太 末口 75 L=2,000 添え柱なし
MS－3D	杉丸太 末口 75 L=2,000 杉丸太添え柱 ℓ=5～6,000付 末口20

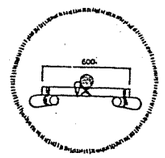
二脚鳥居支柱　MS－2



正面図



側面図



平面図

寸法表

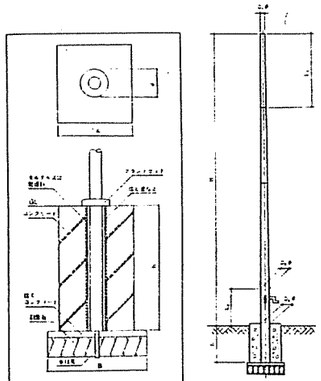
MS－2B	杉丸太 末口 60 L=2,000 L'=800内外 添え柱なし
MS－2C	杉丸太 末口 60 L=2,000 L'=800内外 杉丸太添え柱 ℓ=4,000 内外 末口 20
MS－2D	杉丸太 末口 75 L=2,000 L'=800内外 添え柱なし
MS－2E	杉丸太 末口 75 L=2,000 L'=800内外 杉丸太添え柱 ℓ=5～6,000 末口20

仕様

- 杉丸太は、クレオソート加圧注入処理を行う。
- 添え柱は、3ヶ所以上樹幹に結束すること。
- 鉄線は、亜鉛めっき鉄線#18又は#18より太いものを使用する。
- 丸太相互の取付けは、釘止めを行い、鉄線縛掛けの上、割掛け結束とする。
- 杉丸太は、面取りを行うこと。
- 出木と支柱の結束は、しゅろなわ縛掛けとする。

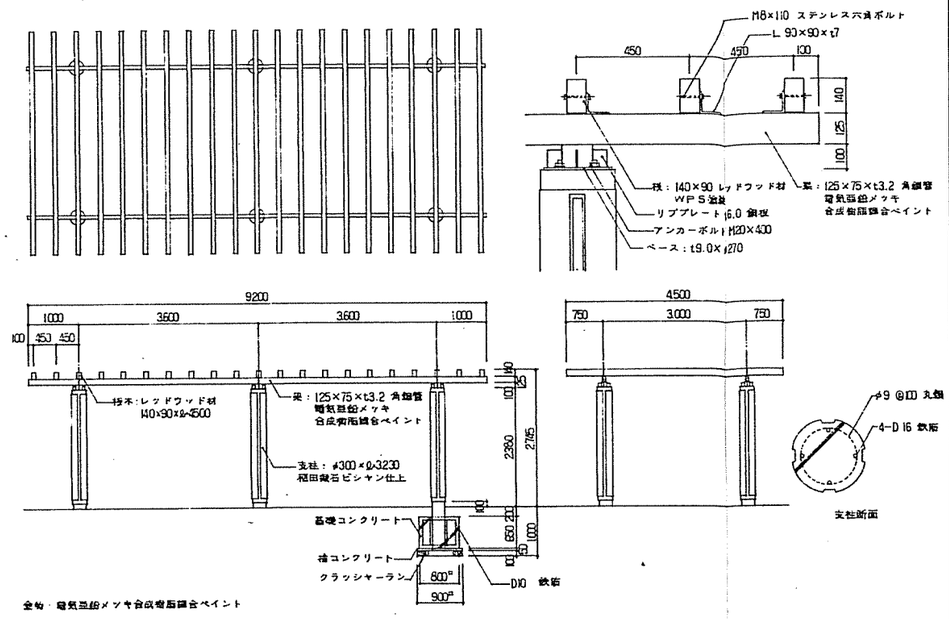
株式会社 佐藤総合計画	設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図（追加工事）	
	工事名 追加工事 リスト・詳細図	縮尺 1/20	
	作図	寸法	通し番号 18

旗竿詳細　10本



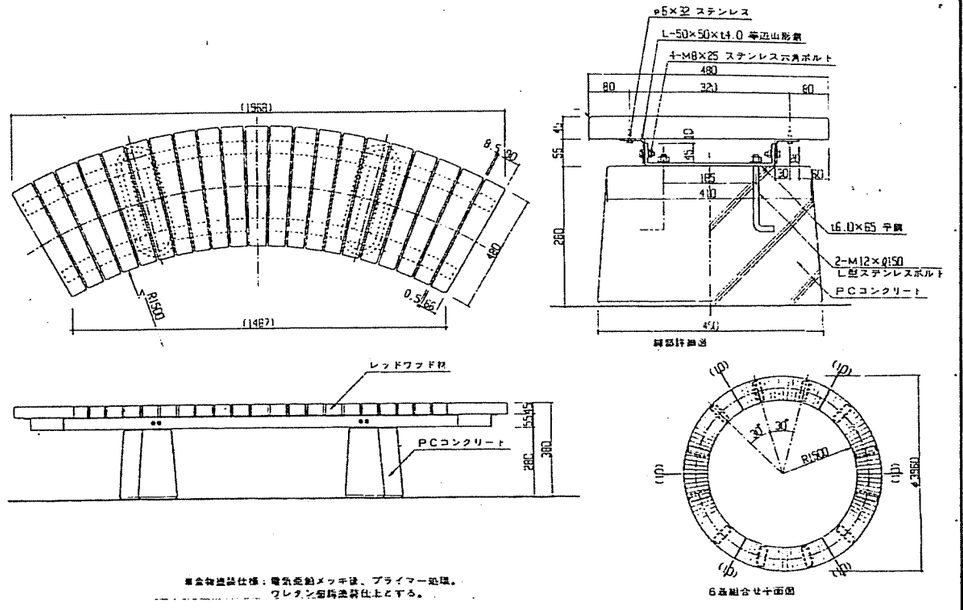
ポール高さ	巾 A	巾 B	深さ h	グランドコンクリート
3m	400	600	500	2×3 60H
4m				
5m			600	
6m				
7m				
8m	600	800	1,000	2×3 60H
9m				
10m	700	900		
11m				
12m			1,500	2×5 60H
13m				
14m				
15m				
16m			1,800	3×6 60H
17m				
18m	800	1,100		
19m				3×6 60H
20m			2,000	

パーゴラ詳細　2台



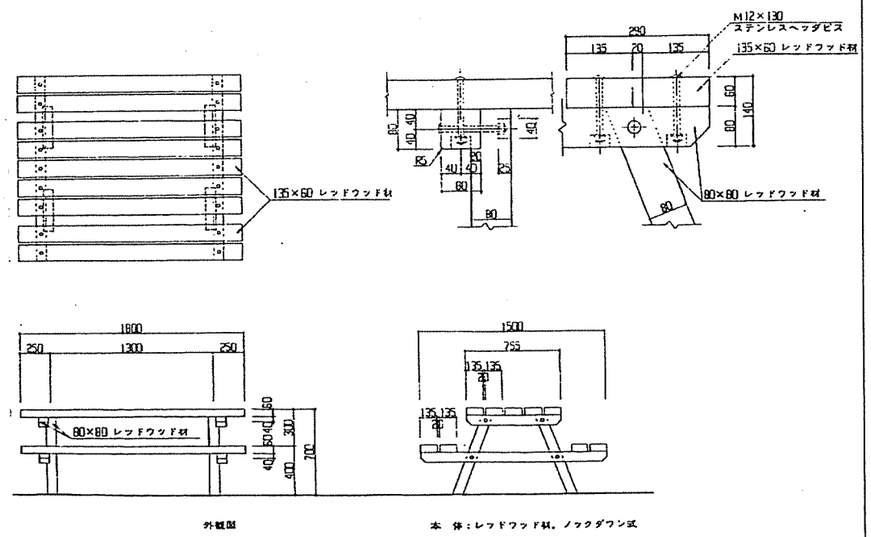
コトブキ EX-9120120程度 又は同等品

サークルベンチ詳細　3台



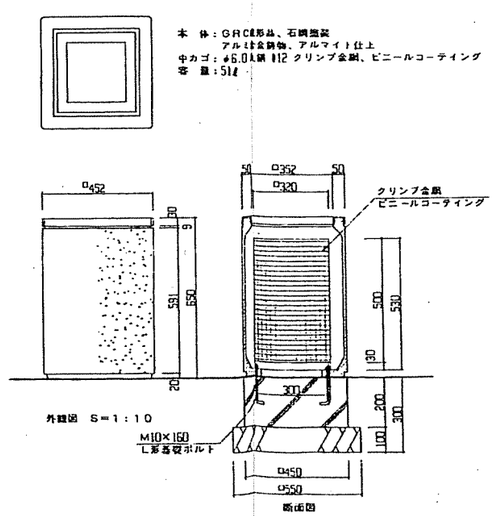
コトブキ EX-13051程度 又は同等品

野外卓詳細　4台



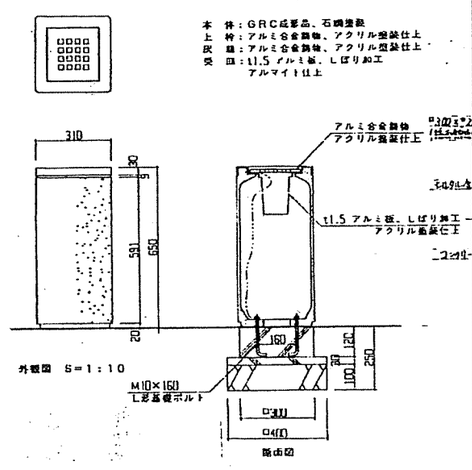
コトブキ EX-17301程度 又は同等品

くず入れ詳細　2台



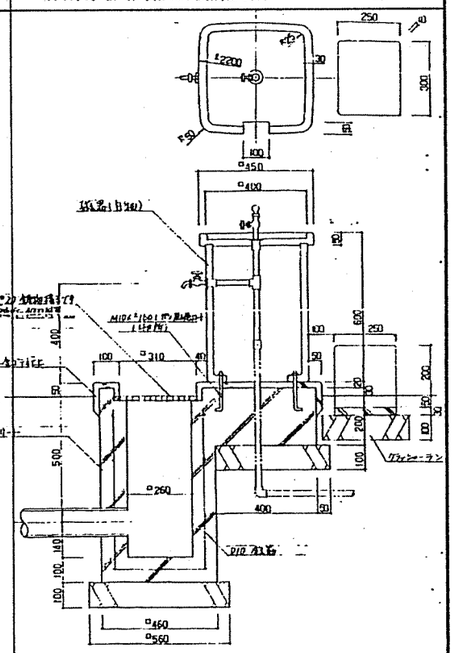
コトブキ EX-36000程度 又は同等品

吸がら入れ詳細　2台



コトブキ EX-46000程度 又は同等品

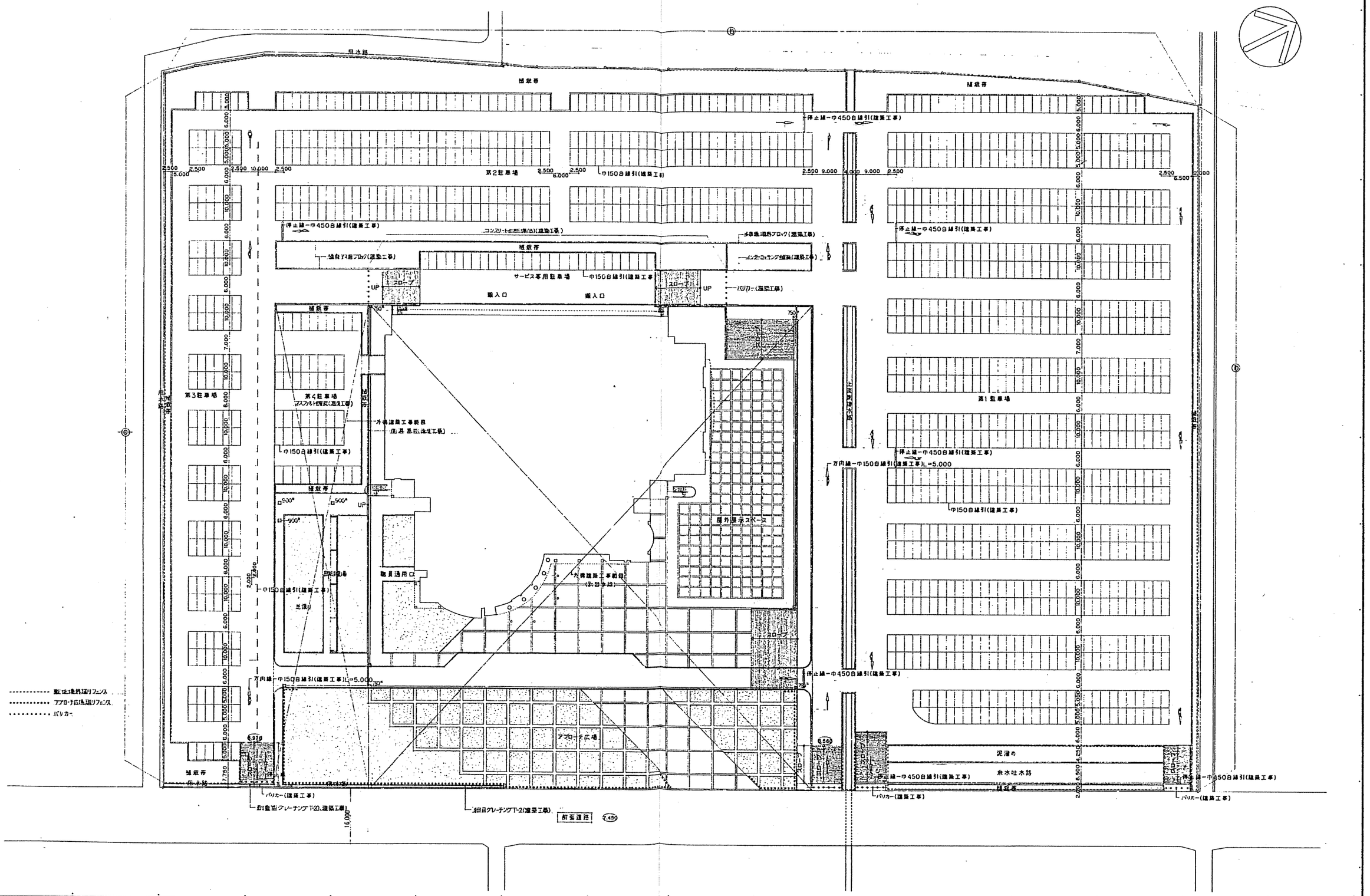
水飲み詳細(給排水設備含む)　2台



コトブキ EX-84080程度 又は同等品

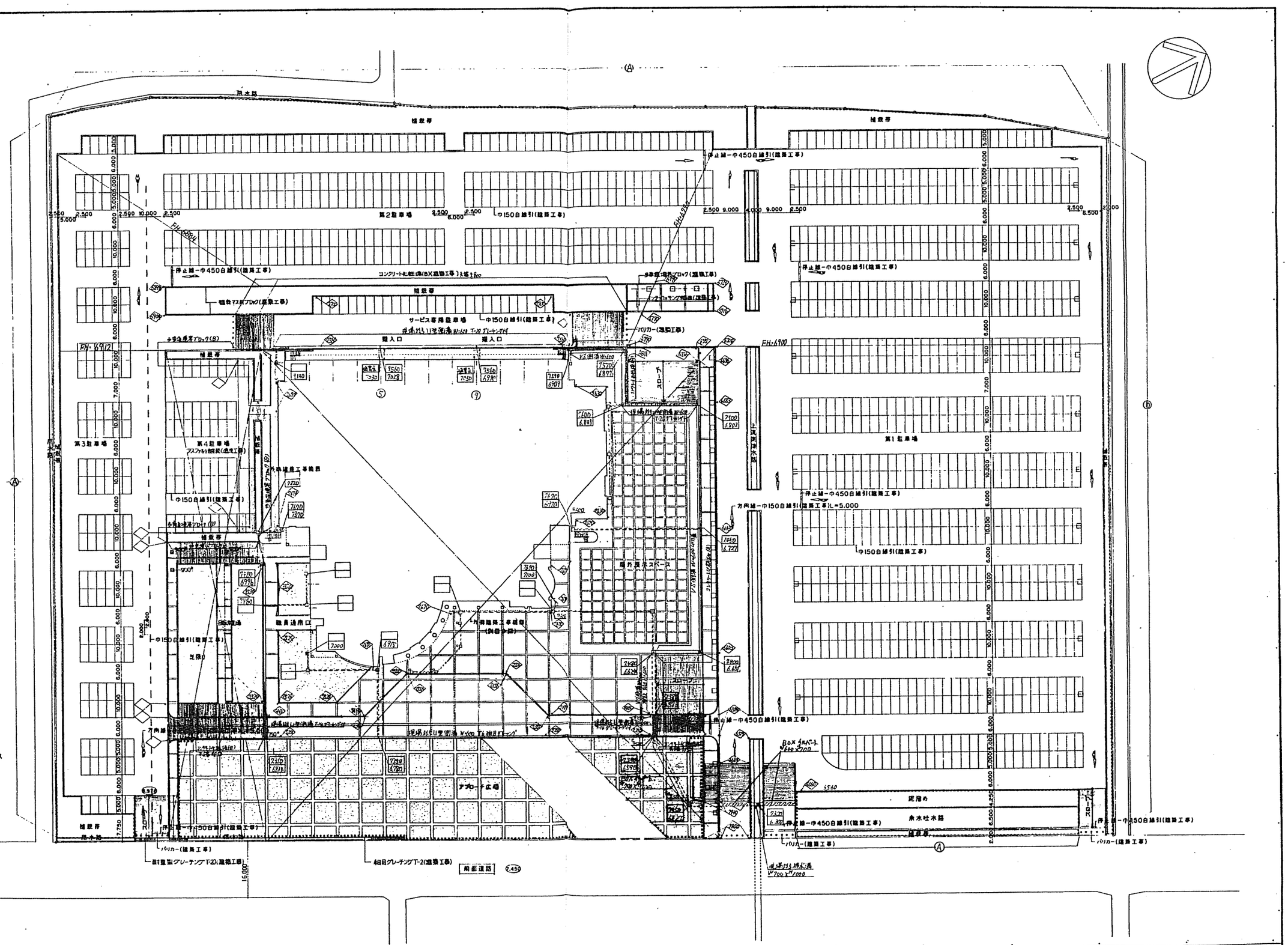
株式会社 佐藤総合計画

設計番号	JOB-1689
工事名称	三重産業振興センター新築工事設計図（追加工事）
工事名	アプローチ広場 造園工事詳細
縮尺	
作成日	
図番	

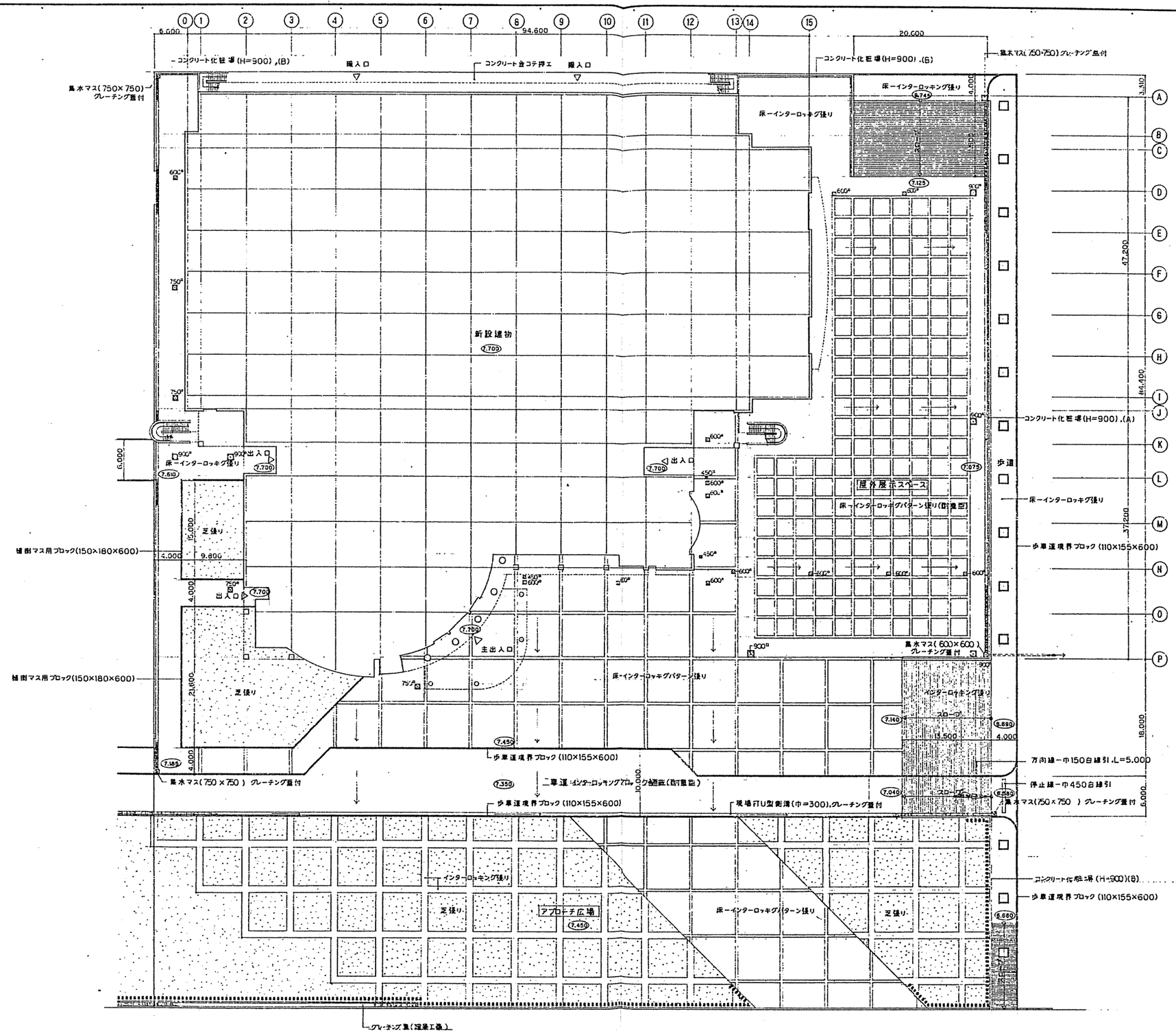


株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図		縮尺
記載名 外構配置図		縮尺 1:500	
担当	製図 熊本	照査 佐藤	作図 松永	作成日 3年11月	差し替え番号

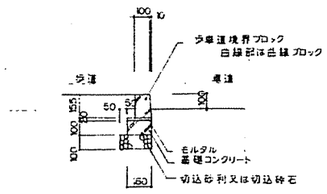


AXS 株式会社佐藤総合計画	設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図	縮尺
	図面名 外構配置図		縮尺 1:500
	担当	作図	作成年月日 3年11月
	一級建築士事務所 建設省許可 第[illegible]号 東京都知事 10133号 建設コンサルタント 登録番号 第63-843号		通し番号 79

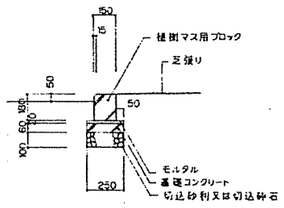


株式会社 佐藤総合計画	設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図	縮尺
	図面名 外構設置計画図		縮尺 1:300
	担当	検図	作成	作成日 3年1月
	一級建築士事務所 東京都知事 第53-843号 佐藤コンサルタント 東京都知事 第53-843号 [3]は(株)佐藤色彩研究所[1]は(株)[illegible]			通し番号 80

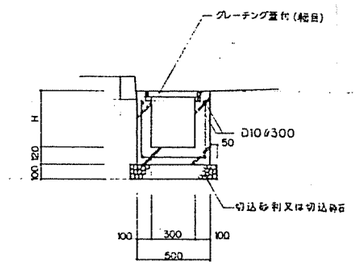
1 歩車道境界ブロック 1/20



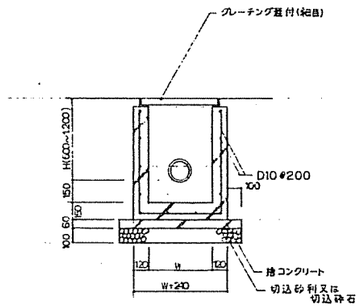
2 植樹マス用ブロック 1/20



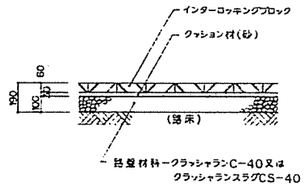
3 現場打U型側溝 1/20



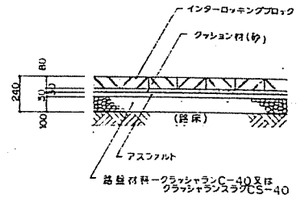
4 集水マス 1/20



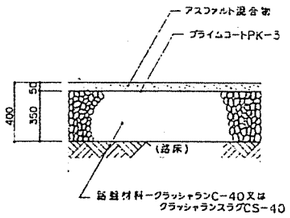
5 インターロッキングブロック舗装(一般) 1/20



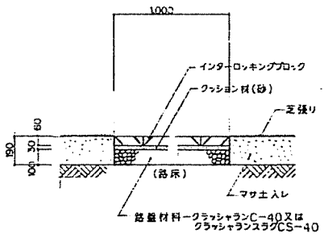
6 インターロッキングブロック舗装(耐重型) 1/20



7 アスファルト舗装 1/20

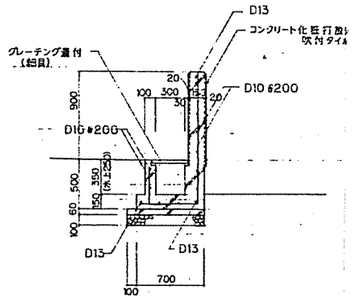


8 インターロッキングブロック+芝張り 1/20

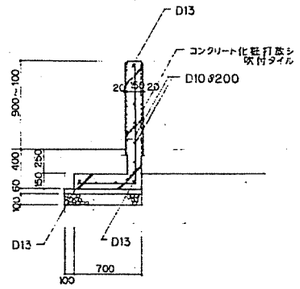


芝張り及びマサエの仕様等については別紙植栽図に依る

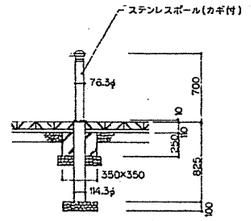
9 コンクリート化粧堰(A) 1/30



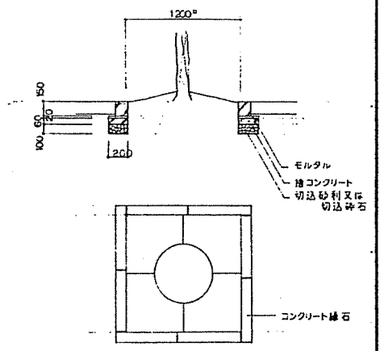
10 コンクリート化粧堰(B) 1/30



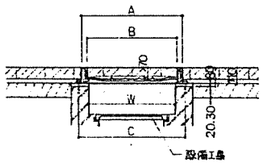
11 バリカー 1/30



12 ツリーサークル 1/30



13 インターロッキングブロック用ハンドホール蓋 1/20

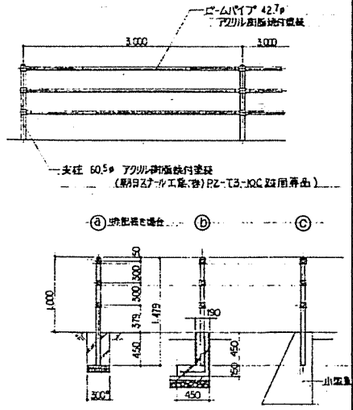


寸法表

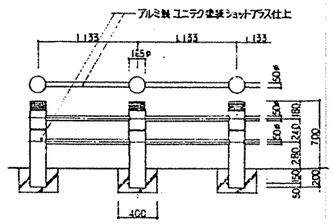
W	A	B	C
450	542	477	580
600	692	623	730
750	844 (872)	770	884 (912)
900	994 (1022)	920	1034 (1062)

ガタツキMRHR-6相当以上品

14 ガードパイプフェンス(敷地境界廻り) 1/40

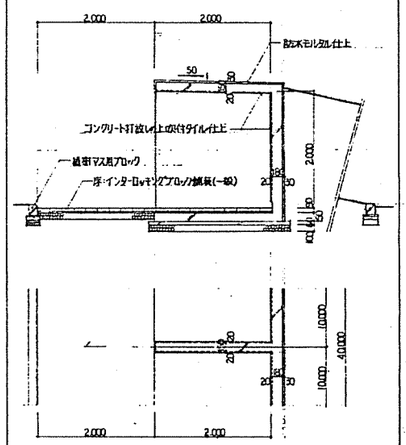


15 フェンス(エントランス廻り) 1/30



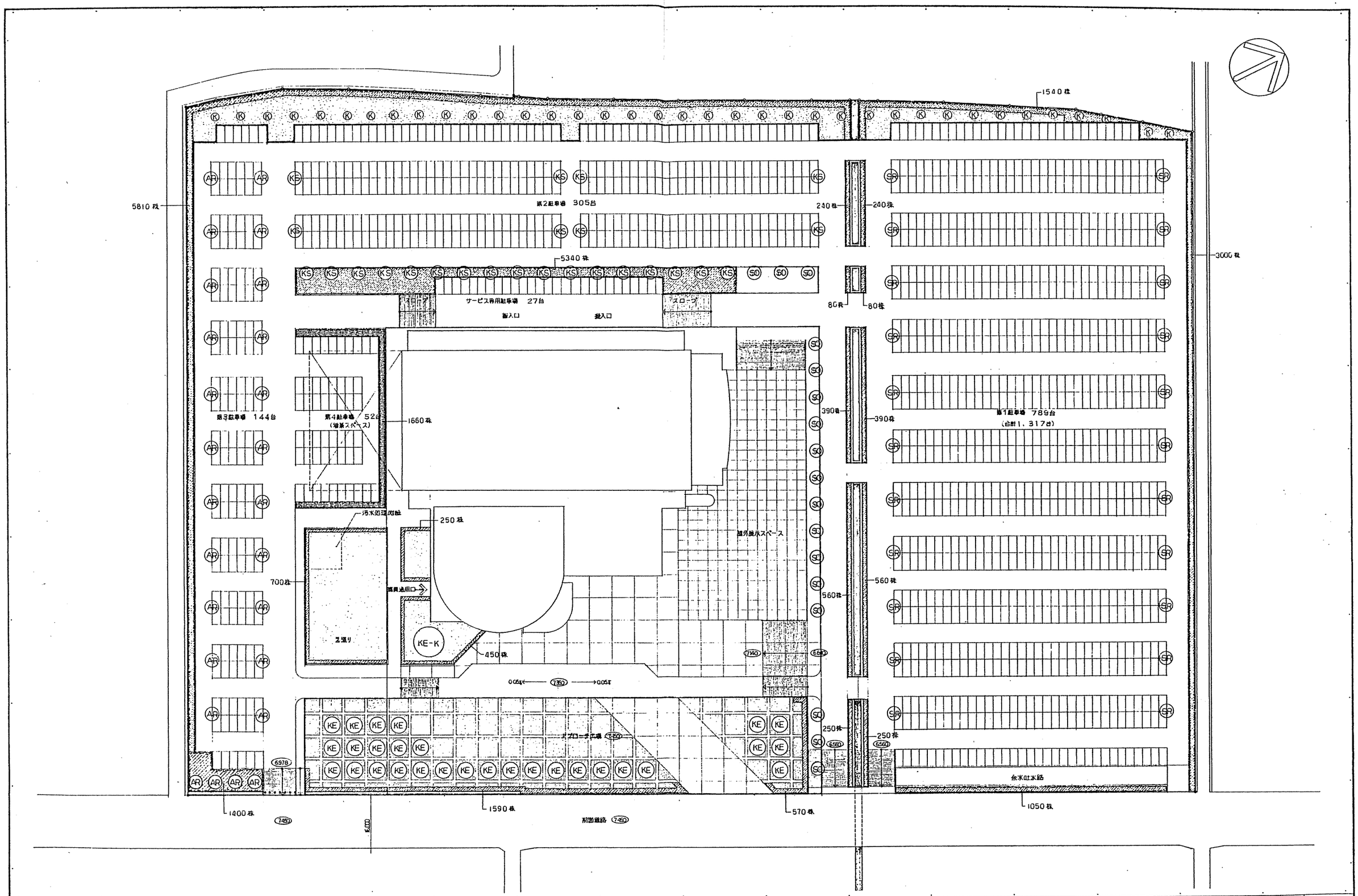
(株)ユニオン EX354 程度又は同等品

16 自転車置場 1/50



株式会社 佐藤総合計画	設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図	縮尺
	図面名 外構詳細図		縮尺 1:20,1/30
	作成	検図	承認	作成日 3年11月	図面番号 81

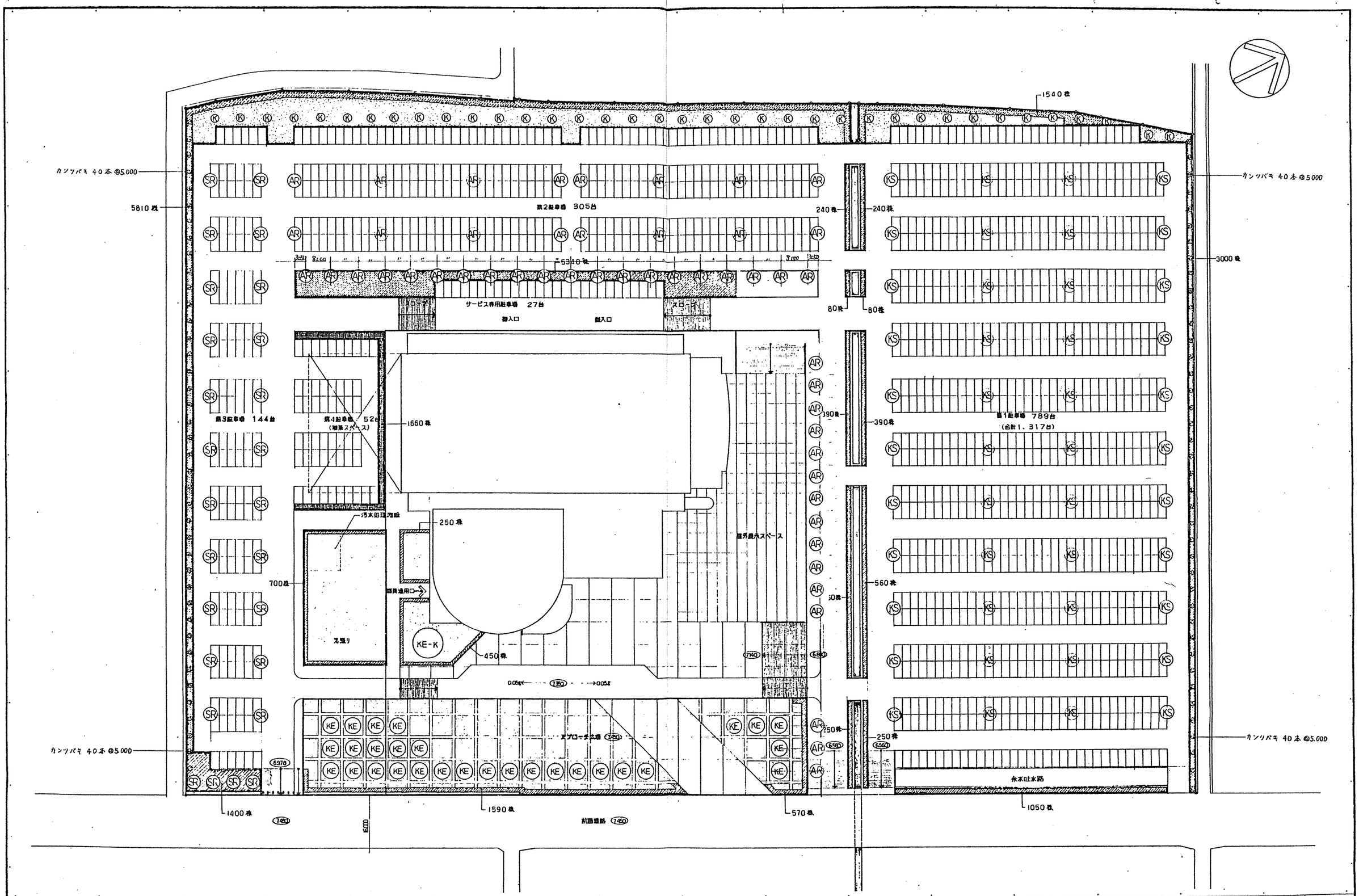
一級建築士事務所 愛知県知事 第[illegible]号 建設コンサルタント 登録番号 第[illegible]号 [illegible]



株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図		縮尺
図面名 建築工事 配置図		縮尺 1/500	
担当	図面	日付 3年11月	通し番号 82

一級建築士事務所 佐藤総合計画 東京都知事 第33号 建設コンサルタント 建設省登 第63-843号 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-7-6

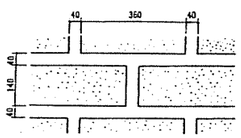


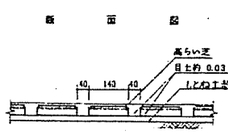
株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図		縮尺
図面名 電気工事配置図		縮尺 1/500	
担当	電気	作図	作成日 3年11月
			通し番号 82

記号	名称	形状寸法 高さ(m)	形状寸法 目通り(m)	形状寸法 葉張り(m)	客土量(m³)	支柱	本数	備考
KE-K	ケヤキ株立	10.0程度	1.5程度	5～10本立	8.864	LS－3D	1株	幹巻
KE	ケヤキ	6.0	0.40	3.0	0.642	MS－3A	29本	〃
SO	ソメイヨシノ	4.0	0.20	1.8	0.247	〃	17〃	〃
KS	クスノキ	4.0	0.40	1.2	0.642	〃	25〃	〃
SR	シラカシ	5.0	0.40	1.8	0.642	〃	22〃	〃
AR	アラカシ	5.0	0.40	1.8	0.642	〃	26〃	〃
K	キンモクセイ	2.5		0.9	0.124	MS－2B	37〃	
	ヒラドツツジ	0.4		0.4	0.008		10350株	8株/m²
	三重サツキ	0.3		0.4	0.008		8380〃	8〃
	カンツバキ	0.4		0.4	0.008		6010〃	8〃
	キャラボク	0.4		0.4	0.008		1660〃	8〃
	芝張り	コウライシバ	70%張り				6233m²	

植栽

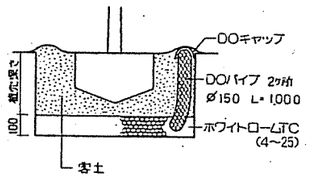




10m²当り

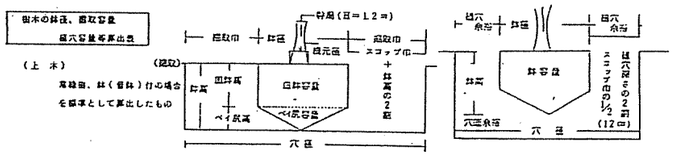
名称	形状寸法	数量	単位	備考
高らい芝	実m²	7.00	m²	
砂	不定	0.500	m³	
油粕		1.00	kg	
芝用化成肥料	N P K 8:5:8	1.00	〃	

駐車場．歩道 土壌改良 69ヶ所



客土1.0m³当り混合

山砂	0.96 m³
パーライト（黒よう石系）	100 ℓ
バーク堆肥	50 kg
ウッドエース（23－2－0）	6.7 〃
固型肥料（6－4－3）	0.7 〃



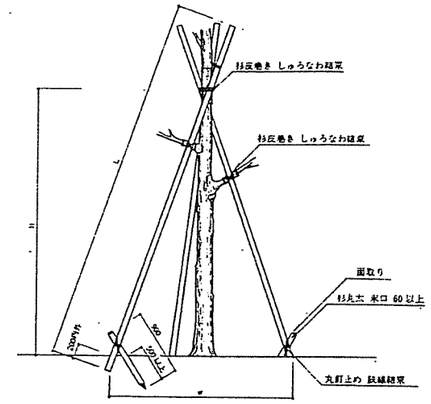
幹周	幹径	根元径	株径	根鉢径	根鉢高	ベイ(根元)高	株高	根鉢容量	ベイ(根元)容量	全株容量	根取巾	植穴(根鉢)径	植穴(根鉢)深	植穴(根元)深	植穴径	植穴容量	植穴(根鉢)容量	植穴(根元)容量	植穴(土)容量	植穴土
cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	m³	m³	m³	cm	m	m	cm	cm	cm	m³	m³	m³	m³
9	2.9	4.4	30	14	8	9	22	0.0095	0.0019	0.012	28	0.128	0.116	18	66	9	30	0.103	0.091	0.012
12	3.8	5.7	35	16	9	10	25	0.0154	0.0029	0.018	29	0.170	0.152	19	73	9	34	0.142	0.124	0.018
15	4.8	7.2	41	18	10	11	28	0.0238	0.0044	0.028	30	0.224	0.196	19	79	9	37	0.181	0.153	0.028
18	5.7	8.6	46	20	12	12	32	0.0332	0.0066	0.040	30	0.282	0.242	20	86	9	41	0.238	0.198	0.040
20	6.4	9.6	50	22	13	13	35	0.0433	0.0085	0.052	31	0.345	0.293	21	92	10	45	0.299	0.247	0.052
25	8.0	12.0	60	26	15	15	41	0.0730	0.0141	0.088	32	0.495	0.407	22	104	10	51	0.433	0.345	0.088
30	9.6	14.4	70	29	18	18	47	0.1119	0.0231	0.135	33	0.682	0.547	24	118	11	58	0.634	0.499	0.135
35	11.1	16.7	79	33	20	20	53	0.1617	0.0327	0.194	35	0.924	0.730	25	129	11	64	0.856	0.642	0.194
40	14.3	21.5	98	40	25	25	65	0.3016	0.0626	0.364	37	1.510	1.146	28	154	13	78	1.452	1.088	0.364
50	19.1	28.7	127	51	32	32	83	0.6457	0.1351	0.781	41	2.846	2.065	31	189	14	97	2.720	1.939	0.781
75	25.9	38.9	156	61	39	39	100	1.1653	0.2493	1.414	44	4.674	3.260	35	226	16	115	4.451	3.237	1.414
90	28.7	43.1	184	72	46	46	118	1.5135	0.4075	2.321	48	7.262	4.941	39	262	18	136	7.328	5.007	2.321

高さ	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出	算出
		幹径×3.14	幹径×1.5	24＋(根元径－3)×4	12＋(根元径－3)×1.5	株径＋4	株径×ベイ高	株径²×0.785×根鉢高	株径²×0.785×ベイ高×1/3	根鉢容量＋ベイ容量	24＋株径×0.2	植穴径²×0.785×株高	植穴容量－全株容量	12＋植穴径×0.2	2.×植穴径＋株径	6.＋株径×0.1	株径²×0.785×株高	植穴径²×0.785×植穴深	植穴容量－株容量	株容量、水はけしの場合
30			15.0			10			0.0018	26	0.0352	0.0334		25		20	0.0095	0.0080	0.0018
50			17.0			12			0.0027	26	0.0448	0.0421		30		23	0.0162	0.0135	0.0027
60			21.0			14			0.0048	27	0.0618	0.0570		37		26	0.0275	0.0231	0.0048
100			23.0			16			0.0066	27	0.0745	0.0579		43		29	0.0369	0.0303	0.0066
150			29.0			21			0.0139	28	0.1191	0.1052		53		34	0.0750	0.0611	0.0139
200			35.0			25			0.0240	29	0.1697	0.1457		65		40	0.1327	0.1087	0.0240

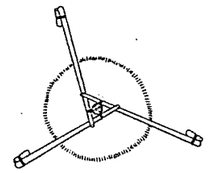
（下・木）胴径の場合を標準として算出したもの

※ 幹周150は株径2.5m 胴径約1.0mで計算． H＝2.5mは幹周12cmを使用

三脚長丸太支柱 LS－3



立面図

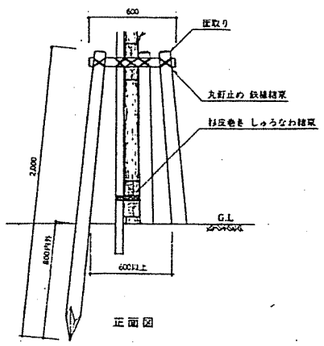


平面図(組立)

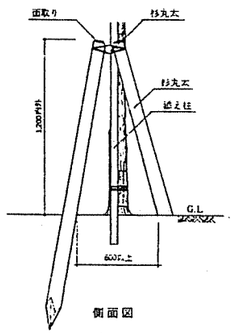
寸法表

記号	丸太	L	W
LS－3A	杉丸太 末口 30	4,000	2,000
LS－3B	杉丸太 末口 40	5,000	2,500
LS－3C	杉丸太 末口 40	6,000	3,000
LS－3D	杉丸太 末口 50	8,000	4,000

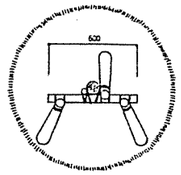
三脚鳥居支柱 MS－3



正面図



側面図

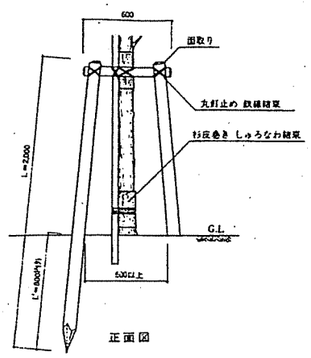


平面図

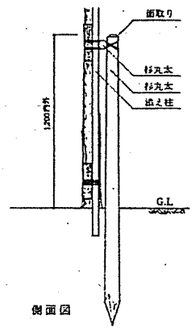
寸法表

MS－3A	杉丸太 末口 60 L＝2,000 添え柱なし	
MS－3B	杉丸太 末口 60 L＝2,000 杉丸太添え柱 ℓ＝4,000付 末口 20	
MS－3C	杉丸太 末口 75 L＝2,000 添え柱なし	
MS－3D	杉丸太 末口 75 L＝2,000 杉丸太添え柱 ℓ＝5～6,000付 末口20	

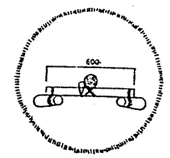
二脚鳥居支柱 MS－2



正面図



側面図



平面図

寸法表

MS－2B	杉丸太 末口 60 L＝2,000 L'＝800内外添え柱なし	
MS－2C	杉丸太 末口 60 L＝2,000 L'＝800内外杉丸太添え柱 ℓ＝4,000付 末口 20	
MS－2D	杉丸太 末口 75 L＝2,000 L'＝800内外添え柱なし	
MS－2E	杉丸太 末口 75 L＝2,000 L'＝800内外杉丸太添え柱 ℓ＝5～6,000 末口20	

仕様

- 杉丸太は、クレオソート加圧注入処理を行う。
- 添え柱は、3ヶ所以上胴幹に結束すること。
- 鉄線は、亜鉛めっき鉄線＃18又は＃18より太いものを使用する。
- 丸太相互の取付けは、釘止めを行い、鉄線綾掛けの上、割掛け結束とする。
- 杉丸太は、面取りを行うこと。
- 樹木と支柱の結束は、しゅろなわ綾掛けとする。

株式会社 佐藤総合計画

設計番号	JOB-1689	工事名称	三重産業振興センター新築工事設計図
図面名	植栽工事リスト・詳細図	縮尺	1/20
作成		作成日	3年11月
一級建築士事務所	建設コンサルタント 登録番号 第63-643号	建設コンサルタント 登録番号 第63-643号	【ミリ法/ヘクトパスカル計量法メートル法】

構造配筋基準図

1. 総　則

1－1　適用範囲

1－1－1　この基準は、鉄筋コンクリート構造部分の配筋について規定する。構造設計図に示す事項の他は、本基準による。

2. 一般共通事項

2－1　鉄筋の表示記号

2－1－1　鉄筋の断面表示には下表の記号による。

(2.1.1 表)

丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ	32φ
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	・	×	⊄	+	○	⊘	⊗	⊜

(注) 本基準中の丸鋼表示の鉄筋に異形鉄筋を使用する場合は、上表の区分にしたがう。

2－1－2－フックの必要な箇所（異形鉄筋）

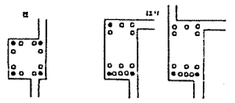
(1) はりの四隅にある主筋（ 下 図の⊜印）で、柱に直手及び柱上端の位置にある場合。

(2) はりの主筋の直の直手が、はりの出隅及び下端の両端（ 下 図の⊜印）にある場合。但し、基礎ばりを除く。

(3) 曲げの鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。

(4) 柱基礎のベース筋。

(5) 壁筋、あばら筋及び幅止め筋。



2－2　鉄筋の折曲げ

2－2－1　末端部

(2.2.1 表)

曲げ角度	折曲げ図		すべてのコンクリート SR24 SDR24 SD24 SDR24	すべてのコンクリート SD30 SD35	SD40	使用箇所
180°		D	3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	
		I	11 d 以上	12 d 以上	14 d 以上	柱、はりの主筋及び柱基礎のベース筋及びD16以上の鉄筋
135°		D	3 d 以上	4 d 以上	—	
		I	11 d 以上	12 d 以上	—	径13mm以下の鉄筋及びにあばら筋、壁筋、スパイラル筋及び補強筋
90°		D	3 d 以上	4 d 以上	—	
		I	12 d 以上	13 d 以上	—	T型及びL型はりのあばら筋
135° 90°		D	3 d 以上	4 d 以上	—	
		I	8 d 以上	8 d 以上	—	補強の筋
		F	9 d 以上	10 d 以上	—	

(注) 1. D=L、曲げ内のうち最小
2. I及びF は、フック部分の長さ

2－2－2　中間部

(2.2.2 表)

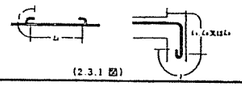
曲げ角度	折曲げ図		すべてのコンクリート SR24、SD24 SR24、SD24	すべてのコンクリート SD30 SD35、SD40	使用箇所
90° 以下		D	3 d 以上	4 d 以上	あばら筋、壁筋、スパイラル筋
		D	5 d 以上	5 d 以上	径16mm以下の鉄筋、梁筋
		D	6 d 以上	6 d 以上	上記以外の鉄筋で、太鼓径16mm以下、及び径はD25以下
		D	8 d 以上	8 d 以上	上記以外の鉄筋で、太鼓径16mm以下、及び径はD25以上D41以下

2－3　鉄筋の継手及び定着の長さ

(2.3.1 表)

鉄筋の種類	四周基準強度 F c(kg/cm²)	フックなし L	フックなし La	フックなし La 小はり	フックなし La 床版	フックあり L	フックあり La	フックあり La 小はり	フックあり La 床版
SR 24 SRR 24	210以上 270未満	—	—	—	—	25 d	35 d	25 d	150mm
SD 24 SD/R24	210以上 270未満	30 d	25 d	25 d	10 d 且つ 150mm 以上	20 d	15 d	15 d	—
SD 30 SD 35	210以上 270未満	40 d	35 d	25 d	10 d 且つ 150mm 以上	30 d	25 d	15 d	—
SD 40	210以上 270未満	45 d	40 d	25 d	10 d 且つ 150mm 以上	35 d	30 d	15 d	—

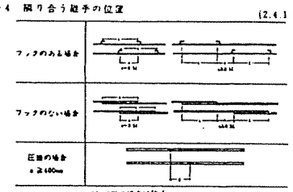
(注) 1. L、L' 及びL'' は、2.3.1 図に示す長さ以内の定着長さ。
2. La：異形鉄筋で、鉄筋端部の丸いもの以外の定着長さ。
3. L：小はり及び床版の下端筋の定着長さ。但し、基礎杭部、これを受けるはりでは除く。
4. フックのある場合の L、L' 及び L'' には、L.1.3図に示すようにフック部分 I をまさない。



(2.3.1 図)

2－4　隣り合う継手の位置

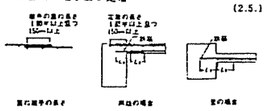
(2.4.1 表)



但し、圧縮及び圧の場合は除く。

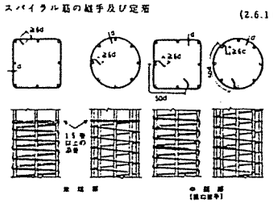
2－5　溶接金網の継手及び定着

(2.5.1 図)



2－6　スパイラル筋の継手及び定着

(2.6.1 図)



2－7　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

2－7－1　鉄筋（溶接金網を含む）の最小かぶり厚さ (mm)

(2.7.1 表)

鉄筋部分の種別					すべてのコンクリート
土に接しない部分	床版、耐力壁以外の壁		仕上げあり		30
			仕上げなし		40
	柱、はり、耐力壁	屋内	仕上げあり		40
			仕上げなし		40
		屋外	仕上げあり		40
			仕上げなし		50
	基礎				50
土に接する部分	柱、はり、床版、壁				50
	基礎、擁壁				70
腐食性と高熱を受ける部分					60

(注) 1. 1) PC工場コンクリートの1種又は2種に適用する。
2. 仕上げとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、吹付け塗装などの表面の処入を施ていない仕上げのものを除く。
3. 柱は、はり、基礎及び壁部で地盤に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 柱基礎の場合のかぶり厚さは、位置端から測る。
5. D 06 "シャ"は、鉄筋を含まない場合の かぶり厚さは"外面"に従う。

2－7－2　鉄筋の間隔

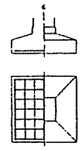
鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。

(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 丸鋼では径の1.5倍、異形鉄筋では径の1.7倍

3. 基　礎

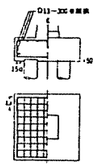
3－1　基礎の配筋と捨コンクリート

3－1－1　直接基礎の場合



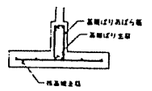
3.1.1 図

3－1－2　杭基礎の場合



3.1.2 図

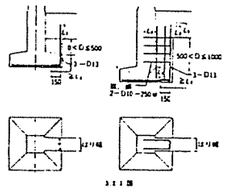
3－1－3　布基礎の場合



3.1.3 図

(注) 1. 捨コンクリートの厚さは規格として50mmとする。
2. 地盤の状況等は原本は構造図による。

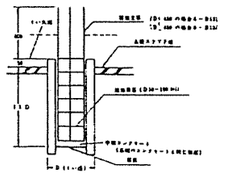
3－2　基礎接合部の補強



3.2.1 図

3－3　くい頭部の補強

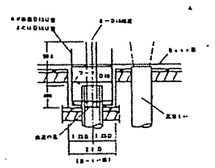
3－3－1　ピン接合の場合は下記を標準とする。



(注) 1. 基礎下端鉄筋のかぶり厚さは（くい天端から測定する。
2. くい頭部を切りそろえる場合、くいの端方向は、くい天端から100 程度のところで切断する。

3.3.1 図

3－3－2　くい頭が、規定レベルよりかなり低い場合



3.3.2 図

4. 基礎ばり

4－1　基礎ばり筋の継手及び定着

4－1－1　一般事項

(1) 独立基礎で基礎ばりに床版がつく場合は、大ばりによる。

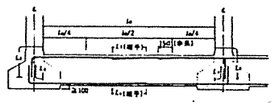
(2) 上端主筋の定着は、やひを持ない場合、上向きとすることができる。

(3) 捨コンクリートの厚さは原則として60mmとする。

(4) 地中ばり下端の地高の根割及び厚さは構造図による。ただし、砂利地高厚さ60mmを標準とする。

4－1－2　異形鉄筋

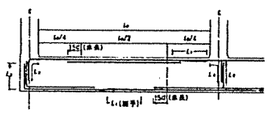
(1) 独立基礎の場合



(注) 1. 図示のない部位は、大ばりによる。
2. ━━━ 印は継手、及び余長位置を示す。

4.1.1 図

(2) 連続基礎及びべた基礎の場合



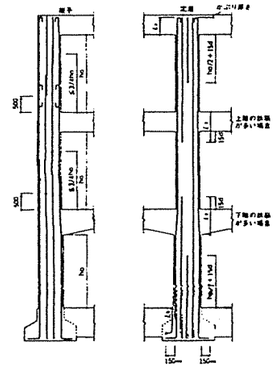
(注) 1. 図示のない部位は、大ばりによる。
2. ━━━ 印は継手、及び余長位置を示す。

4.1.2 図

5. 柱

5－1　柱筋の継手及び定着

5－1－1　異形鉄筋の場合



(注) 1. 継手及び定着中心位置は、はり上端500 mm以上及び 1/4 h ≦ l1 ≦ h は柱の内の大寸）以下とする。
2. 鉄筋の継手の位置は(1)に従による。

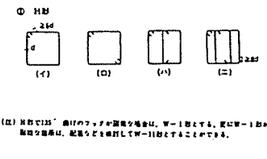
5.1.1 図

5－2　帯　筋

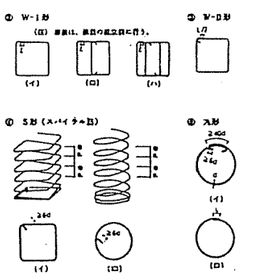
5－2－1　帯　筋

(1) 帯筋の1組の数、径、間隔（P@）及び組立ての形を特記する。ただし、径及び間隔は、下記を標準とする。
柱の最大径 ＞600　D13－100 @
〃 ≦600　D 9－100 @

(2) 帯筋組立ての形は、5.2.1 図とし標準は、H形とする。



(注) 柱径で135° 曲げのフックが困難な場合は、W－1形とする。更にW－1形が困難な場合は、配筋などを検討してW－11形とすることができる。

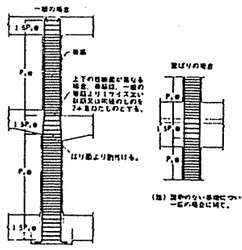


(注) 必要する場合の補強筋としは、内部フック補強の場合は1.4 D以上、片側フック補強の場合は1.6 D以上とする。

5.2.1 図

(3) フック及び継手の位置は交互とする。

5－2－2　帯筋の割付



(注) 図示のない部位については、一般の場合に従う。

5.2.2 図

6　大ばり

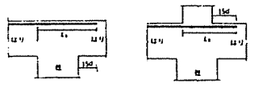
6－1　大ばり筋の継手及び定着

6－1－1　一般事項

(1) 継手及び圧接中心位置は、下記による。
上端筋－中央 $l_0/2$ 以内
下端筋－両端 $l_0/4$ 以内

(2) 継手長さは L_1 とし、定着長さ及び余長は、6.1.3 図及び6.1.4 図による。

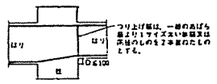
(3) はり筋で、柱をまたいで引き通すことのできない場合は、柱内に定着する。
なお、はり内に定着する場合は、6.1.1 図による。



6.1.1 図

(4) 段違いばりは、配筋などを検討して下記によることができる。

① D≦100 の場合は
6.1.2 図による

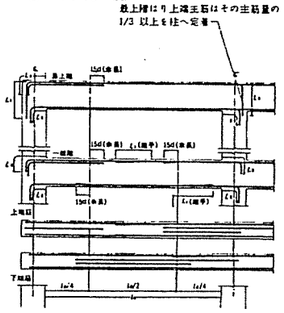


6.1.2 図

② D＞100 の場合は鉄筋を柱内に定着する。

6－1－2　異形鉄筋

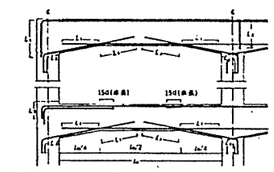
(1) ハンチのない場合



(注) 1. 2.1.2 で定めた長さにはフックをつける。
2. ━━━ は、継手、及び余長を示す。

6.1.3 図

(2) ハンチのある場合



(注) 1. 2.1.2. で定めた長さには、フックをつける。
2. ━━━ は、継手、及び余長を示す。
3. はり内定着の場合で鉄筋が通過するときは、・・・・・・・・ のように引通すことができる。

6.1.4 図

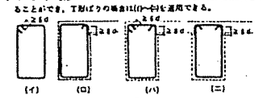
6－2　あばら筋、壁筋及び幅止め筋

6－2－1　あばら筋

(1) あばら筋の径及び間隔を特記する。ただし径及び間隔は下記を標準とする。また、梁はりの場合は、はり幅にかかわらずD10－100 @とする。はり幅≦300　D10－200 @
300＜はり幅≦400　D10－150 @

(2) あばら筋組立ての形及びフックの位置

(1) 形は、6.2.1図(ロ)とする。但し、L形はりの場合は(ハ)又は(ホ)とすることができ、T形はりの場合は(ハ)～(ホ)を適用できる。

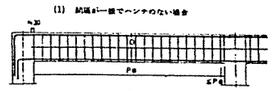


6.2.1 図

(2) フックの位置は、(ロ)の場合は交互とし、(ハ)の場合は、L形では床版のつく側、T形では交互とする。
なお、(ホ)の場合は床版のつく側を 90° 折曲げとする。

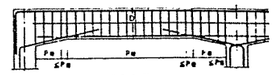
6－2－2　あばら筋の割り付け

(1) 梁端が一様でハンチのない場合



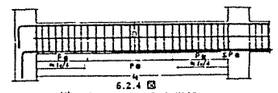
6.2.2 図

(2) 梁端が一様でハンチのある場合



6.2.3 図

((3) はりの端部で梁端の異なる場合

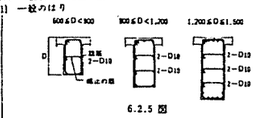


6.2.4 図

(4) あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

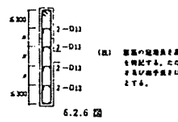
6.2.3　鉄筋及び幅止の筋

(1) 一般のはり



6.2.5 図

(2) 壁はり



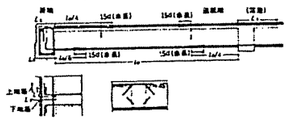
(注) 壁筋の定着長さ及び端部長さは、6.2.1 図に準ずる。

6.2.6 図

(3) 幅止の筋及び受け用幅止の筋は、D10－1000@程度とする。

7. 小ばり及び片持ちばり

7－1　小ばり筋の継手及び定着

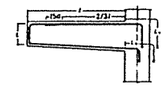


(注) 1. 図示のない部位は大ばりの端による。
2. 両端になる場合の位置するの長筋は、大ばり内に同のに定着する。
3. ━━━ は、継手、及び余長を示す。

7.1.1 図

7－2　片持ちばり筋の定着

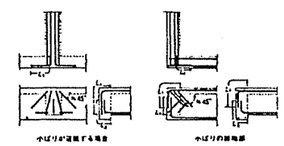
7－2－1　先端に小ばりのない場合



(注)
1. 図示のない部位は、大ばりによる。
2. ━━━ 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さは、はりせいより2cm程度を加いた長さとする。
4. はり筋を引込まない場合は、端部へ同付に定着する。
但し、柱に取付る場合は、余長を15d以上を確保でき、上端筋は、1本以上は柱に定着する。

7.1.1 図

7－2－2　先端に小ばりのある場合



(注) 1. 図示のない部位は、先端に小ばりのない場合による。
2. 上端筋は、小ばり内に同のに定着する。

7.2.2 図

株式会社 佐八総合計画	図面番号 JCB-1689	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図	縮尺
	図面名 一般事業 1		担当
	作図	照査	作成日 3年11月
	一級建築士事務所 建設省等 建設業第10333号 建設コンサルタント 登録番号 第653-843号 (名古屋/津市北部名古屋市北区小針本町)		通し番号 102

8. 壁

8－1　壁筋の継手及び定着

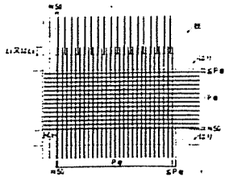
(1) 壁配筋の継手及び定着の長さは，L_1 とする。

(2) 土圧などを受ける壁及び耐震壁として特記されたものに，継手長さを L_1，定着長さを L_2 とする。

(3) 継手及び定着のとれない場合は，監督員の承諾を受けて，両面フレア溶接の場合には5 d 以上，片面フレア溶接の場合は10 d 以上とすることができる。

(4) 柱との間は，壁，梁ともD10－1,000㎜程度とする。

(5) 一般壁筋の配筋は 8.1.1 図による。



8.1.1 図

8－2　壁の基準配筋

壁の基準配筋は，下記により，個別に特記する

8－2－1　一般の壁

(8.2.1 表)

種別		鉄筋図	配筋及び間隔
W_{11}		100	D10－250㎜シングル
W_{12}		120	D10－200㎜シングル
W_{13}	A	150	D10－150㎜シングル
	B		D10－100㎜シングル
W_{14}	A	180	D10－200㎜ダブル
	B		D10－150㎜ダブル
W_{21}	A	200	D10－250㎜ダブル
	B		D10－150㎜ダブル

(注) (1)配筋の配筋間隔は問わない。
(2)端との間は最低共D10－1000㎜程度とする。

8－2－2　片持ち床版形階段を受ける壁

(8.2.2 表)

種別	鉄筋図	配筋及び間隔		配筋特記(11.1.1表)
KW_1	T	縦筋	D13－200㎜ダブル	A1,A1'
	L	横筋	D10－200㎜ダブル	
KW_2	T	縦筋	D13－150㎜ダブル	A2,A2'
	L	横筋	D10－200㎜ダブル	

(注) (1)縦筋は，壁筋の内側に配筋する。
(2)端との間は最低共D10－1000㎜程度とする

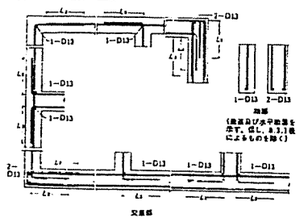
8－3　パラペット並びに外部に面する壁壁及び垂れ壁の配筋

(8.3.1 表)

施工箇所	コンクリート厚さ (mm)	方向	配筋	先端補強筋
パラペット	特記による	縦	D10－150㎜ ダブル	D13－150㎜
		横	D10－200㎜ ダブル チドリ	4－D13
外部に面する壁壁及び垂れ壁	120	縦	D10－200㎜ シングル	2－D13 4－D13
		横	D10－100㎜ シングル	
	150	縦	D10－150㎜ シングル	
		横	D10－100㎜ シングル	

(注) 端との間は最低共D10－1000㎜程度とする。

8－4　交差部及び端部の配筋



8.4.1 図

8－5　壁開口部の補強

(1) 壁開口部の補強は，6.5.1 表のA形及び6.5.2 表のB形とし，特記がなければA形とする。但し，耐震壁を除く。

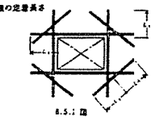
8.5.1 表　A　形

壁の種別	補強筋	
	縦，横	斜め
W_{11}，W_{12}	1－D13	1－D13
W_{13}，W_{21}	2－D13	2－D15

8.5.2 表　B　形

壁の種別	補強筋	
	縦，横	斜め
W_{11}，W_{12}	2－D13	1－D13
W_{13}，W_{21}	4－D13	2－D13

(2) 壁開口部補強の定着長さ



8.5.1 図

(3) 開口部が柱，はりに接する部分及び最大径が300㎜以下で，壁筋を曲やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。

9. 床　版

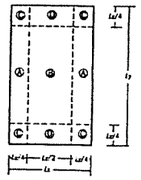
9－1　床版の基準配筋

床版の基準配筋は，建設工事共通仕様書（建設大臣官房官庁営繕部監修昭和60年版）の5.2.11表～5.2.15表により配筋種別及び厚さは特記による。
配筋は中央から割付け，端部は定められた間隔の$\frac{1}{3}$以下とする。

9－1－1　一般事項

(1) 5.2.11表及び5.2.12表の Ⓐ，Ⓑ，Ⓒ，Ⓓの位置は5.1.1図による。

(2) A，B形基準配筋の折曲げ位置は，周辺よりほぼ $l_x/4$ の位置（9.1.1 図の点線）とし，その位置に1－D13を配筋する。

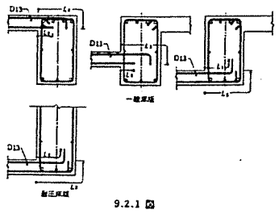


9.1.1 図

(3) 継手長さは，L_1 とする。

9－2　定着長さ及び受け筋

9－2－1　定着長さ及び受け筋の配筋は，9.2.1 図による。



9.2.1 図

9－2－2　E形及びF形基準配筋

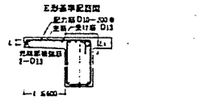
(1) 一般部

9.2.1 表　E形基準配筋

配筋種別		主筋
E_1	上	D10，D13－200㎜
	下	—
E_2	上	D10－200㎜
	下	—

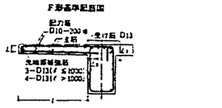
9.2.2 表　F形基準配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
F_1	上	D13－100㎜	F_4	上	D10，D13－300㎜
	下	D13－200㎜		下	D10－300㎜
F_2	上	D13－150㎜	F_5	上	D10－300㎜
	下	D13－300㎜		下	D10－400㎜
F_3	上	D10，D13－150㎜	—		
	下	D10，D13－300㎜			



(注) 先端の折曲げ長さは，底版厚さ2ヒロより厚さを設いた長さとする。

9.2.2 図



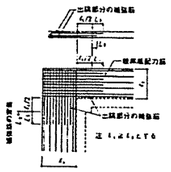
(注) 先端の折曲げ長さは，底版厚さ2ヒロより厚さを設いた長さとする。

9.2.3 図

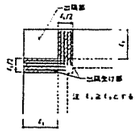
(2) 出隅部

① 補強の配筋は特記による。特記のない場合は D10－100㎜ ダブルとする。配筋方法は，9.2.4 図による。

② 出隅受け筋（9.2.5 図のハ，ホ部分）の配筋は特記による。



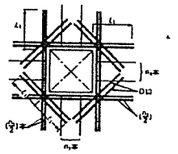
9.2.4 図



9.2.5 図

9－3　床版開口部の補強

(1) 床版開口の最大径が600㎜以下の場合は，9.3.1図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で補強し，隅角部は同の方向に2－D13 ($l=2L_1$) を，上下筋の内側に配筋する。



9.3.1 図

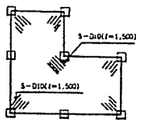
(2) 床版開口の最大径が異方向の配筋間隔以下で，鉄筋を曲やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。

(3) 床版開口の最大径が600㎜をこえる場合及びスリーブのまとまった場合の補強は，図面特記による。

9－4　その他の補強

9－4－1　屋根床版

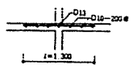
屋根床版の出隅及び入隅部分には，9.4.1 図により，補強筋を上端筋の下側に配置する。



9.4.1 図

9－4－2　段つき床版

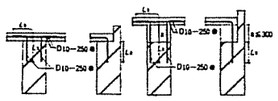
床版に上端筋がなく，段が付いている場合には，9.4.2 図の補強筋を入れる。



9.4.2 図

9－4－3　土間コンクリートの補強筋

土間コンクリートに補強筋を入れる場合は，9.4.3図による。



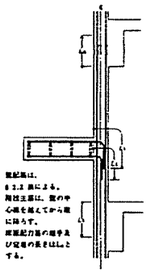
9.4.3 図

10. 階　段

10－1　片持ち床版形の基準配筋

10.1.1表　A形，A'形基準配筋

配筋種別	A 1	A 2
配筋図	D12 D13 D10－300㎜ D10－300㎜ 125	2－D11 D13 D10－300㎜ D10－300㎜ 125
配筋種別	A 1	A 2'
配筋図	D10－300㎜ 125 D13 D12	D10－300㎜ 125 D13 2－D12



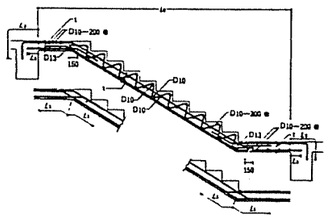
(注) 1. 壁配筋は，9.2.2 表による。
2. 階段主筋は，壁の中心線を越えてから壁に沿うて。
3. 床版配力筋の継手及び定着の長さはL_1とする。

10.1.1図

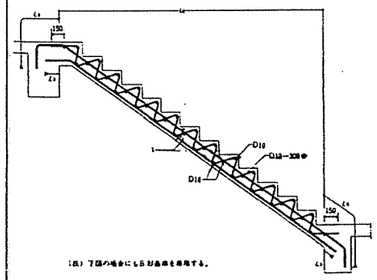
10－2　二辺固定床版形の基準配筋

10.1.2表　B形基準配筋

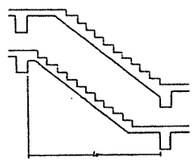
記号	床版厚さ t(mm)	金網	
板種別		主筋	補強筋
B 1	150	D13－200㎜	
B 2	150	D13－150㎜	
B 3	150	D13－100㎜	
B 4	180	D13，D16－150㎜	
B 5	180	D16－150㎜	
B 6	180	D16－125㎜	
B 7	200	D16－100㎜	



10.1.2図



(注) 7図の場合にもB形基準を適用する。



10.1.3図

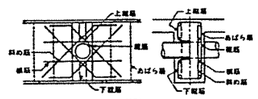
11. はり貫通孔補強の標準配筋

㈱H形配筋　・MH形配筋　・M形配筋

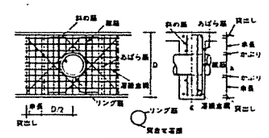
(11.1.1表)

適用範囲	孔径補強筋	配筋図
h≦100	斜め 2－2－D13 縦 2－2－D13 横 6L $\frac{1}{2}$S T R&L	多孔並列の場合は縦2－2－D13を入れる
100＜h≦200	斜め 4－2－D13 縦 2－2－D13 横 2－2－D13 $\frac{1}{2}$S T R 3－2－D13	
200＜h≦300	斜め 4－2－D13 縦 2－2－D13 横 2－2－D13 $\frac{1}{2}$S T R 4－2－D13	
300＜h≦600	斜め 4－2－D13 縦 4－2－D13 横 2－2－D13 $\frac{1}{2}$S T R 6－2－D13	

(1) はり貫通孔補強筋の名称などは11.1.1図による。
(2) 孔の径は，はりせいの$\frac{1}{2}$以下とし，孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
(3) 孔の上・下方向の位置は，11.1.2図による。
(4) 孔の中心位置の限度は，柱及び直交するはり（小ばり）の面から原則として1.2 D（Dは，はりせい）以上離す。
(5) 孔が並列する場合は，その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下横筋は，あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は主筋の内側とする。やむをえない場合は監督員の承諾を受けて外側とすることができる。また，鉄筋の定着長さは11.1.3図による。
(8) 孔の径がはりせいの1/10以下且つ150㎜未満のものは，補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし，突出しは10㎜以上とする。
(10) 溶接金網に付けるリング筋は，溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は，梁筋ではあばら筋の下側とし，縦筋では貫通孔の中心とする。

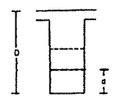


H形



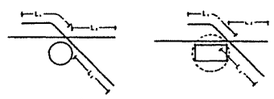
MH形及びM形

11.1.1図



500≦D＜700	d≧175
700≦D＜900	d≧200
900≦D	d≧250

11.1.2図



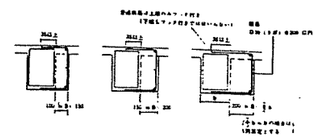
11.1.3図

12. 梁・柱のふかし配筋

12－1　梁のふかし

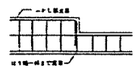
12－1－1　側面ふかし部分の配筋（ふかし寸法100 未満のときは補強筋不要）

(1) ふかし寸法100 以上の場合

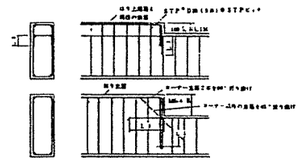


(2) ふかし部がはりスパン途中で終わる場合

（平面図）

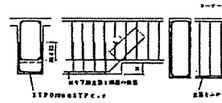


12－1－2　上端段差部のふかし配筋

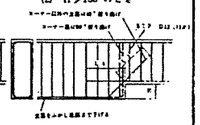


12－1－3　下端段差部のふかし配筋（ふかし寸法100 未満のときは補強筋不要）

(1) 100≦ H≦150 のとき



(2) H ＞150 のとき

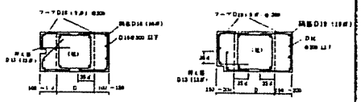


注）はり上下のふかし寸法が大きい場合に，はり主筋を見接け上のはりせいの位置に通したのでは応力最大であるコンクリート表面には，はり主筋がないので，クラックが発生し拡大することになる。したがって，ふかし寸法がある程度（150 程度）より大きい場合には，ふかし筋ではなく主筋を下げて配筋すべきである。

12－2　柱ふかし

12－2－1　柱ふかし部分の配筋（ふかし寸法100 未満のときは補強筋不要）

(1) ふかし寸法150 未満のとき　(2) ふかし寸法150 以上 200 以下のとき



注）ふかし部が一層分あるときは，柱寸法が大きくなると考えて，フープを大きくし，太き！外側に出す。

(3) ふかし寸法が200 を超えるとき　別途指示とする。

13　その他

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB－1689	工事名称 三菱電機住宅センター新築工事設計図		縮尺
図面名 一般事項 2			縮尺
担当	審査	作成	作成日 3年11月

一級建築士事務所 東京都知事 第33号 東京都千代田区麹町1-8-1 TEL 03-3263-8111 (代表)
総合コンサルタント 登録番号 第63-843号 (設計部門は佐藤武夫設計事務所)

図面番号 1-03

調査名	(財)三重県産業振興センター新施工事業調査
ボーリング番号	No. 1
所在地	三重県津市納所町・北河路地内
調査年月日	平成3年 9月17日～平成3年 9月18日
孔口標高	+6.71m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォーード型
実施者	近藤 義美 責任者 熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	孔内水位 (m)	試料採取深度 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験
			1.50	9/18 1.50			シルト	暗灰	下部に腐植物多く混入。腐植臭強い。	非常に硬っかい	
	+5.21	1.50	2.20				シルト	暗灰	腐植物混入。下部、腐植土が層状に発達。	非常に硬っかい	
	+3.01	3.70	0.90				粗砂	黄灰	小礫を混入。中砂混じり、粗い。	硬い	
	+2.11	4.60	1.50				礫混じり中砂	黄灰	1.1φ×20mmGLT。下部、レキ多くなる。2.6～5.75m間、シルト混じり、粗い。	中位	
	+0.61	6.10	0.60				シルト	暗灰	腐植物混入。上部ほど多く混入。	硬い	
	+0.01	6.70	0.80				礫混じり中砂	黄灰	1.1φ×10mmGLT。腐植物多く混入。粗い。	中位	
	-0.79	7.50	0.50				シルト質細砂	暗灰	貝殻片～。	－	
	-1.29	8.00	0.80				細砂シルト	暗灰	腐植物多く混入。貝殻片多く混入。	硬っかい	
	-2.09	8.80	0.75				シルト質細砂	暗灰	貝殻片多く混入。腐植物混入。	硬い	
	-2.84	9.55	3.15				粗砂	黄灰	20mmφ程度の小レキ混入。10～20程度も。11.5～11.65m間、シルト混じり、粗い。	中位	
	-5.99	12.70	1.00				砂礫	暗黄灰	1.1φ×50mmGLT。20cm程度のレキ混入。80mm程度のレキ混じり、フリッシュ20程度。粗い中～やや高。	中位	
	-6.99	13.70	0.90				シルト質細砂	黄灰	貝殻片～。	硬っかい	
	-7.89	14.60	1.90				シルト質細砂	暗黄灰	貝殻片～。	非常に硬っかい	
	-9.69	16.40	3.30				礫質粘土	暗黄灰	腐植物多く、下部～粗砂混入多く。下部、腐植物層状に混じる。	強固	
	-13.49	20.20									

Bor. No. 1　　株式会社　東京ソイルリサーチ

調査名	(財)三重県産業振興センター新施工事業調査
ボーリング番号	No. 2
所在地	三重県津市納所町・北河路地内
調査年月日	平成3年 9月19日～平成3年 9月20日
孔口標高	+6.76m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォーード型
実施者	近藤 義美 責任者 熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	孔内水位 (m)	試料採取深度 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験
			1.50	9/19 1.50			シルト	暗灰	0.7～1m付近、腐植物多く混入。	硬っかい	
	+5.26	1.50	2.20				シルト	暗灰	腐植物多く、粗い部分多く。	非常に硬っかい	
	+3.06	3.70	1.70				粗砂	黄灰	1.1φ×10mmGLT～レキ多く混入。腐植物多く混入。粗い。	中位	
	+1.36	5.40	1.40				シルト質細砂	暗灰	5～10cm程度のレキ、シルト質細砂の混じる。	－	
	+0.04	6.80	0.90				中砂	黄灰	小レキ混じり、粗い。	中位	
	-0.94	7.70	0.70				細砂シルト	暗灰	小レキ～5cm程度混入。腐植物多く混じる。	硬っかい	
	-1.64	8.40	2.20				中砂	黄灰	腐植物混入。粗い。	中位	
	-3.84	10.60	1.40				礫混じり粗砂	黄灰	1.1φ×10mmGLT。粗い。	中位	
	-5.24	12.00	0.60				細砂シルト	暗灰	貝殻片多く混入。	中位	
	-5.84	12.60	1.80				砂礫	黄灰	1.1φ×10mmGLT。1.1φ×50mmGLT。20cm程度のレキ混入。フリッシュ20程度。粗い。	中位 粗っかい	
	-7.64	14.40	2.10				シルト質細砂	暗黄灰	腐植物～。中部～粗砂混入。	非常に硬っかい	
	-9.74	16.50	3.80				礫質粘土	暗黄灰	腐植物混入。10、14.6～16.0m、砂礫混入。固結した。	強固	
	-13.54	20.30	4.90				シルト質細砂	暗黄灰	腐植物～。部分的に腐植物混入。下部～粗砂多く混入。	非常に硬っかい	
	-18.44	25.20	1.60				粗砂	黄灰	腐植物～。部分的に腐植物混入。下部、5～6cm程度のレキ混入。粗い。	非常に硬っかい	
	-20.04	27.80	2.50				シルト質細砂	暗黄灰	腐植物～。部分的に腐植物混入。下部～粗砂多く混入。	非常に硬っかい	
	-22.54	29.50	0.60				粗砂	黄灰	腐植物～。下部10cm程度、腐植物多く混入。	非常に硬っかい	
	-23.14	30.10									

Bor. No. 2　　株式会社　東京ソイルリサーチ

調査名	(財)三重県産業振興センター新施工事業調査
ボーリング番号	No. 3
所在地	三重県津市納所町・北河路地内
調査年月日	平成3年 9月21日～平成3年 9月21日
孔口標高	+6.80m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォーード型
実施者	近藤 義美 責任者 熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	孔内水位 (m)	試料採取深度 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験
			1.50	9/21 1.50			シルト	暗灰	腐植物多く混入。粗い部分多く混じる。	非常に硬っかい	
	+5.30	1.50	3.10				シルト	暗灰	腐植物混入。粗い部分多く。下部、腐植臭強い。	非常に硬っかい	
	+2.20	4.60	1.20				中砂	黄灰	1.1φ×10mmGLT。粗い。	中位	
	+1.00	5.80	0.40				礫混じり粗砂	黄灰	1.1φ×10mmGLT。粗い。	中位	
	+0.60	6.20	0.50				シルト質細砂	暗灰	腐植物多く混入。レキ少～でない。下部、5cm程度混入。	硬い	
	-0.30	7.10	2.50				中砂	黄灰	腐植物混入。シルト質細砂混じり。粗い。	中位	
	-2.80	9.60	0.50				砂質シルト	暗灰	貝殻片多く、腐植物混入。	硬っかい	
	-3.30	10.10	0.60				シルト質細砂	暗灰	貝殻片～、腐植物多く混入。	硬い	
	-3.90	10.70	1.00				砂質シルト	暗灰	貝殻片多く、腐植物多く混入。	硬っかい	
	-4.90	11.70	0.50				砂質シルト	黄灰	ヤレキ多く混入。腐植物多く混じる。	硬っかい	
	-5.40	12.20	2.60				砂礫	黄灰	1.1φ×50mmGLT。1.1φ混入多く、50～60程度。フリッシュ20程度。粗い。80～100cm程度も混じる。粗い中～やや高。	中位	
	-8.00	14.80	1.25				シルト質細砂	暗黄灰	腐植物～。粗い部分多く混じる。部分、シルト質細砂の層厚も混じる。部分的に硬質層が層状に発達。	非常に硬っかい	
	-9.25	16.05	4.15				礫質粘土	暗黄灰	腐植物多く混入。下部、シルト質細砂の層厚も混じる。固結している。	強固	
	-13.40	20.20									

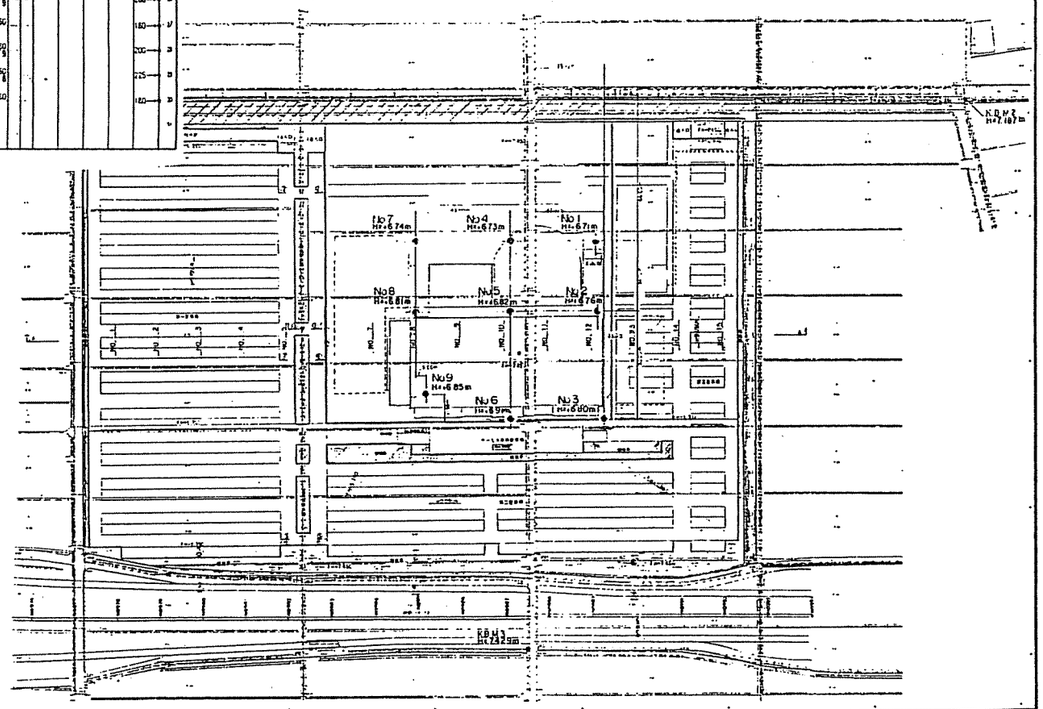
Bor. No. 3　　株式会社　東京ソイルリサーチ

調査名	(財)三重県産業振興センター新施工事業調査
ボーリング番号	No. 4
所在地	三重県津市納所町・北河路地内
調査年月日	平成3年10月 2日～平成3年10月 3日
孔口標高	+6.73m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォーード型
実施者	近藤 義美 責任者 熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	孔内水位 (m)	試料採取深度 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験
			1.50	10/3 1.50			シルト	暗オリ	腐植物混入。	非常に硬っかい	
	+5.23	1.50	1.10				シルト	暗灰	腐植物多く混入。2.35～2.60m間、シルト質細砂混じり。	非常に硬っかい	
	+4.13	2.60	0.55				シルト	暗灰	腐植物多く混入。	非常に硬っかい	
	+3.58	3.15	0.55				シルト質細砂	暗灰	イレキ～0.5程度混入。	硬い	
	+3.03	3.70	0.90				中砂	黄灰	イレキ多く混入。粗い高。	中位	
	+2.13	4.60	1.20				砂礫	黄灰	1.1φ×20mmGLT。フリッシュ20程度混入。粗い高。	中位	
	+0.93	5.80	2.00				粗砂	黄灰	イレキ多く混入。65～80程度混入。粗い高。	中位	
	-1.07	7.80	0.30				シルト質細砂	暗灰	貝殻片～。	硬い	
	-1.37	8.10	0.60				砂質シルト	暗灰	貝殻片多く。	硬っかい	
	-1.97	8.70	0.80				中砂	暗黄灰	腐植物多く混入。粗い高。	硬い	
	-2.77	9.50	0.60				砂質シルト	暗灰	貝殻片多く、腐植物混入。	硬っかい	
	-3.37	10.10	0.60				シルト質細砂	暗灰	貝殻片～。	硬い	
	-3.97	10.70	1.10				シルト	暗灰	全体に腐植物多く混入。	硬っかい	
	-5.07	11.80	0.50				中砂	黄灰	イレキ～粗砂多く混入。	中位	
	-5.57	12.30	2.50				砂礫	暗黄灰	1.1φ×50mmGLT。1.1φ混入多く、50～60程度。フリッシュ20程度。粗い高～やや高。	中位	
	-7.87	14.60	1.10				シルト質細砂	黄灰	貝殻片～。	非常に硬っかい	
	-8.97	15.70	0.75				シルト質細砂	暗黄灰	貝殻片～。	非常に硬っかい	
	-9.72	16.45	1.25				シルト質細砂	暗黄灰	貝殻片～。腐植物多く混入。	非常に硬っかい	
	-10.97	17.70	2.40				礫質粘土	暗黄灰	1.1φ、腐植物多く混じる。部分、シルト質細砂の層厚も混じる。固結している。	強固	
	-13.37	20.10									

Bor. No. 4　　株式会社　東京ソイルリサーチ



株式会社 佐藤総合計画

設計番号	JOB-1689	工事名称	三重産業振興センター新施工事業計画
図面名	地質柱状図 (1)		縮尺
作成	佐藤	審査 佐藤	作図 佐藤
一級建築士事務所 建設省 東京都知事1033号	建設コンサルタント 建設省 第63-843号	(社)日本ソイル工学会	平成3年11月
図面番号	104		

調査名	(財)三重県産業振興センター新築工事土質調査
ボーリング番号	No. 5
所在地	三重県津市栗真町屋町・北河路周地内
調査年月日	平成3年 9月26日～平成3年 9月26日
孔口標高	+6.52m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォード型
実施者	近藤 義美
責任者	熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 m	標高 GL m	深度 m	層厚 m	孔内水位 m	試料採取深度 m	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験 打撃回数	N値	標尺
			3.10	9/26 1.50			シルト	暗オリーブ	表層部は根が多く混入。	軟らかい			
	+3.22 / +3.02	3.10 / 3.50	0.40				シルト質砂	暗灰	砂分多く混入。	軟らかい			
	+2.72	4.60	1.40				粗砂	黄褐	粗～中砂多く混入。	中位			
	+2.32	5.50	0.90				礫混じり粗砂	黄褐	1～10mmφ程度の礫混入。4.75～4.80m間シルト層に。	中位			
			2.10				中砂	黄褐	砂分多く混入。	中位			
	-3.78	7.60											
			1.75				小礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫。8.70～8.95m間シルト層に。	中位			
	-2.53	9.35	0.65				シルト質砂	暗灰	砂質部分混入。砂質シルト層を挟む。	-			
	-3.18	10.00	1.55				砂質シルト	暗灰	所々に砂10～20mm混入。上部、黄色土混入。下部に向って固い。砂分多くなる。	中位			
	-4.73	11.55	0.65				粗砂	黄褐	5～10mm程度の礫混入。	-			
	-5.18	12.00	0.65				中砂	黄褐	砂分多く混入。	中位			
	-5.83	12.65	2.05				砂礫	暗青灰	1～10mmφ程度の礫混入。砂分多く含む。	中位～密している			
	-7.88	14.70	0.90				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～中砂混入。シルト質部を挟む。	軟らかい～密している			
	-8.78	15.60	0.80				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～中砂混入。シルト質部を挟む。	軟らかい～密している			
	-9.58	16.40	1.30				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～中砂混入。貝殻片を含む。	軟らかい～密している			
	-10.88	17.70	2.40				従属粘土	暗黄灰	18.50m以下粗砂分多く混入。砂分多く含む。固結性を有す。	硬い			
	-13.28	20.10											

Bor. No. 5　　株式会社 東京ソイルリサーチ

調査名	(財)三重県産業振興センター新築工事土質調査
ボーリング番号	No. 6
所在地	三重県津市栗真町屋町・北河路周地内
調査年月日	平成3年 9月25日～平成3年 9月25日
孔口標高	+6.91m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォード型
実施者	近藤 義美
責任者	熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 m	標高 GL m	深度 m	層厚 m	孔内水位 m	試料採取深度 m	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験 打撃回数	N値	標尺
			7.55	9/25 1.50			シルト	暗青灰	礫混り粗砂多く混入。	非常に固い			
	+1.36 / +1.06	2.55 / 2.85	0.30				シルト質砂	暗灰	粗砂多く混入。	非常に固い			
	+0.21	3.70	0.85				シルト	暗灰	粗砂多く混入。	非常に固い			
	+2.41	4.50	0.80				シルト質砂	暗黄灰	中砂多く混入。砂分多く。	中位			
			1.50				粗砂	黄黄灰	細～中砂多く混入。礫分多く混入。	中位			
	+0.61	6.30	0.70				礫混じりシルト	暗灰	粗砂多く混入。所々細砂層混入。	-			
	-0.09	7.00	1.00				中砂	暗黄灰	細～中砂多く混入。砂分多く。	中位			
	-1.09	8.00	0.55				シルト質砂	暗灰	所々砂分多く混入。	固い			
	-1.64	8.55	0.85				粗砂	暗黄灰	細～中砂多く混入。砂分多く。	中位			
	-2.49	9.40	0.60				シルト質砂	暗灰	細～粗砂多く混入。1.85～2.00m間シルト層に。	-			
	-3.09	10.00	0.60				シルト	暗灰	粗砂層混入。	中位			
	-3.69	10.60	0.40				シルト質砂	暗黄灰	細～粗砂多く混入。	-			
	-4.09	11.00	0.40				礫混じりシルト	暗灰	細～粗砂多く混入。	中位			
			1.10				中砂	暗黄灰	9.65～11.75m間シルト層を挟む。	中位			
	-5.59	12.50	2.10				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。砂分多く含む。11.1～11.2m間シルト層に。	中位			
	-7.69	14.60	0.40				シルト質砂	暗灰	粗砂層混入。	-			
	-8.09	15.00	1.20				砂礫	暗黄灰	1～50mmφ程度の礫混入。シルト質部分に。	固いている			
	-9.29	16.20	2.20				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～細砂多く混入。粗砂～細砂層に。13.1～13.6m間シルト層に。13.6m以下礫分多くなる。	非常に固いている			
	-11.49	18.40	3.77				従属粘土	暗黄灰	18.50m以下粗砂分多く混入。砂分多く含む。固結性を有す。	硬い			
	-15.26	22.17											

調査名	(財)三重県産業振興センター新築工事土質調査
ボーリング番号	No. 9
所在地	三重県津市栗真町屋町・北河路周地内
調査年月日	平成3年 9月23日～平成3年 9月24日
孔口標高	+6.85m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォード型
実施者	近藤 義美
責任者	熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 m	標高 GL m	深度 m	層厚 m	孔内水位 m	試料採取深度 m	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験 打撃回数	N値	標尺
	+6.10	0.75	0.75	9/23 1.50			シルト	黄灰	礫混り粗砂多く混入。	-			
	+5.25	1.60	0.85				中砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。砂質シルト層挟む。砂分多く。	中位			
	+4.10	2.75	1.15				シルト	暗灰	粗砂多く混入。	非常に固いっぽい			
	+3.35	3.50	0.75				シルト質砂	暗黄灰	粗砂多く。	-			
	+2.85	4.00	0.50				中砂	暗灰	砂分多く。砂分多く。	中位			
	+2.00	4.85	0.85				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫。1～5mmφ程度の礫混入。砂分多く含む。	密している			
	+0.75	6.10	1.25				礫混じりシルト	暗灰	粗砂多く混入。所々砂分多く混入。	中位			
	-0.15	7.00	0.90				中砂	暗黄灰	細砂多く。砂分多く。	中位			
	-1.15	8.00	1.00				シルト質砂	暗灰	粗砂多く。砂質シルト層挟む。	固い			
	-1.50	8.35	1.40				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。10mmφ程度の礫多く含む。砂分多く。	中位			
	-2.90	9.75	0.95				シルト	暗黄灰	13.50m以下に5～10mmφ程度の礫。所々砂分多く。	固っぽい			
	-3.85	10.70	1.40				シルト質砂	暗灰	7層シルト層挟む。	固い			
	-5.25	12.10	1.30				礫混じり粗砂	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。	密している			
	-6.55	13.40	2.30				砂礫	暗黄灰	1～50mmφ程度の礫混入。1～5mmφ程度の礫。フリッ、フユ状砂分。15.0～15.2m間、砂分多く。	中位～密している			
	-8.85	15.70	1.10				粗砂	暗黄灰	礫分多く。	非常に固っぽい			
	-9.95	16.80	2.30				シルト質砂	暗黄灰	礫分多く。4～5mmφ程度の礫多く。所々砂分多く混入。砂質シルト層挟む。	非常に固っぽい			
	-12.85	19.70	1.55				従属粘土	暗黄灰	粗砂多く混入。25.00m以下で、所々砂分多く混入。	硬い			
	-17.35	24.20	1.50				シルト質砂	暗黄灰	粗砂多く混入。26.4～26.5m間、シルト層挟む。4～10mmφ程度の礫。29.6～29.75m間、シルト層に。	非常に固っぽい			
	-21.65 / -23.21	28.70 / 30.06	1.36				砂礫	暗黄灰	礫分多く。	非常に固っぽい			

Bor. No. 9　　株式会社 東京ソイルリサーチ

調査名	(財)三重県産業振興センター新築工事土質調査
ボーリング番号	No. 7
所在地	三重県津市栗真町屋町・北河路周地内
調査年月日	平成3年10月 1日～平成3年10月 2日
孔口標高	+6.74m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォード型
実施者	近藤 義美
責任者	熊谷 尚文

備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 m	標高 GL m	深度 m	層厚 m	孔内水位 m	試料採取深度 m	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験 打撃回数	N値	標尺
	+5.74	1.00	1.00	10/2 1.50			シルト	暗青灰	表層部、根部多く混入。	-			
	+3.64	3.10	2.10				シルト質砂	暗灰	粗砂多く。2.0～2.2m間、シルト層に。下部は固結度増加。	非常に固い			
	+2.54	4.20	1.10				シルト	暗灰	粗砂多く、所々砂分多く混入。2.8m、黄灰色土層。	非常に固っぽい			
	+1.89	4.85	0.65				シルト質砂	暗灰	粗砂多く。	非常に固い			
	+1.14	5.60	0.75				中砂	暗黄灰	砂分多く混入。砂分多く。	中位			
	+0.54	6.20	0.50				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。砂分多く。	中位			
	-0.26	7.00	0.80				シルト	暗灰	粗砂層分多く混入。所々砂質シルト層挟む。	固っぽい			
	-1.11	7.85	0.85				中砂	暗灰	シルト質砂層挟む。砂分多く。	中位			
	-1.61	8.35	0.50				砂質シルト	暗灰	粗砂多く混入。礫混ず。	中位			
			2.85				小礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。砂分多く。	中位			
	-4.46	11.20	0.90				シルト	暗灰	粗砂多く混入。下部、暗灰色土層で、所々砂分多く含む。	中位			
	-5.36	12.10	0.50				シルト質砂	暗灰	粗砂多く。砂質シルト層挟む。	中位			
	-5.86	12.60	2.25				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。1～50mmφ程度の礫。フリッ、フユ状砂分多く。砂分多く含む。	中位～密している			
	-8.11	14.85	1.25				シルト質砂	暗黄灰	粗砂多く。18.0m、シルト層挟む。	中位			
	-9.36	16.10	2.55				粗砂	暗黄灰	砂分多く。18.20～20.0m間、砂質シルト。	中位～密している			
	-11.91	18.65	1.15				シルト質砂	暗黄灰	粗砂多く。所々砂分多く。	非常に固っぽい			
	-13.06	19.80	4.33				従属粘土	暗黄灰	上部、粗砂層多く混入。砂分多く含む。固結性を有す。	硬い			
	-17.39	24.13											

調査名	(財)三重県産業振興センター新築工事土質調査
ボーリング番号	No. 8
所在地	三重県津市栗真町屋町・北河路周地内
調査年月日	平成3年 9月30日～平成3年10月 1日
孔口標高	+6.81m 基準 KBM
ボーリング工法	ロータリー式ハンドフォード型
実施者	近藤 義美
責任者	熊谷 尚文

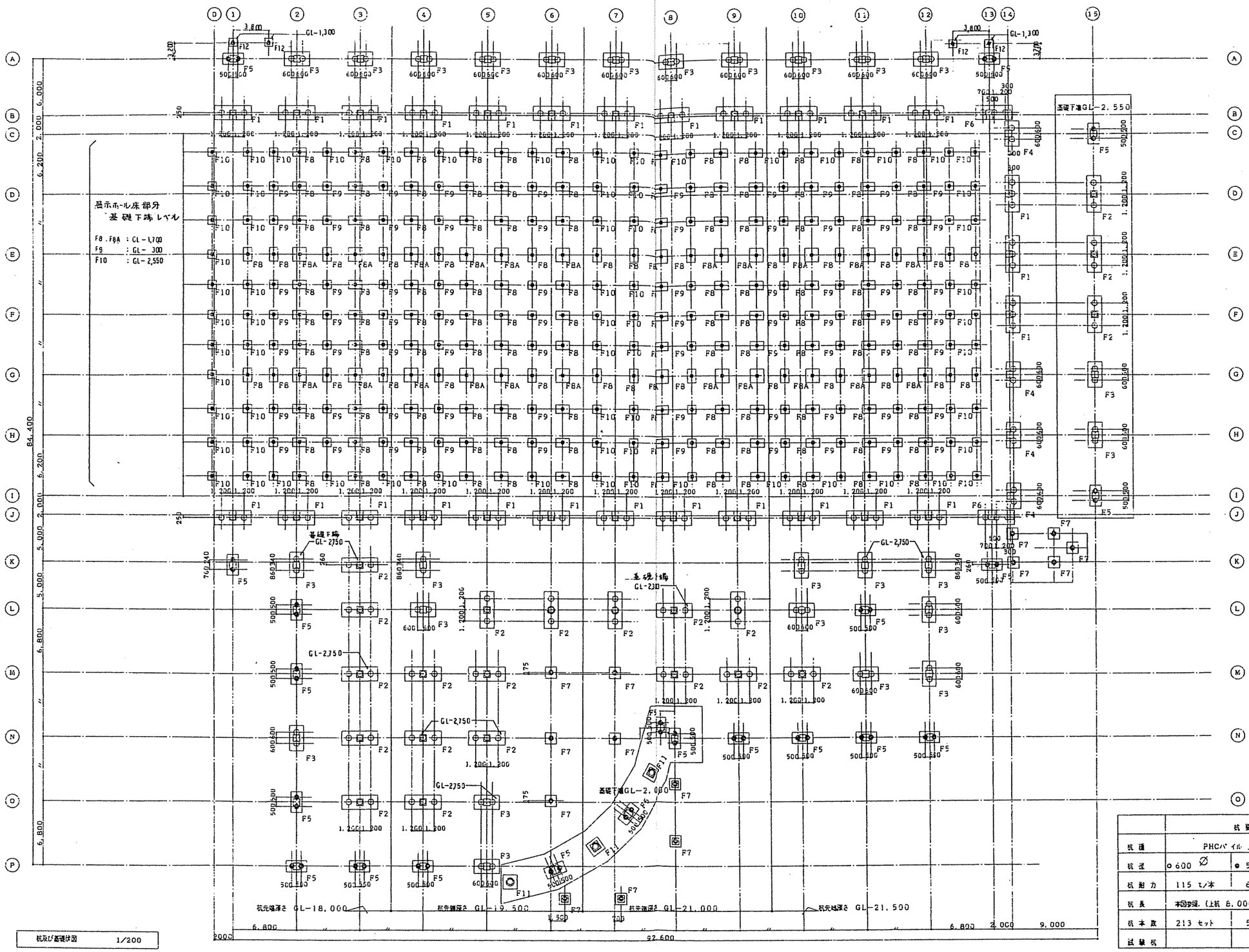
備考
U・・・不撹乱試料採取
D・・・撹乱試料採取
標準貫入試験の落下用具はトンビを使用した。

標尺 m	標高 GL m	深度 m	層厚 m	孔内水位 m	試料採取深度 m	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度及びコンシステンシー	標準貫入試験 打撃回数	N値	標尺
	+6.11	0.70	0.70	9/30 1.50			シルト	暗灰	表層部、根部多く混入。	-			
	+5.01	1.80	1.10				小礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫混入。表層部。	中位			
	+4.11	2.70	0.90				小礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫。	中位			
	+3.11	3.70	1.00				シルト	暗灰	粗砂層混入。	非常に固っぽい			
	+2.11	4.70	1.00				中砂	黄褐灰	砂分多く。粗砂多く。	中位			
			2.35				礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫。砂分多く含む。下部は粗砂多く。砂分多く。	中位			
	-0.15	7.00	1.15				シルト	暗灰	粗砂多く混入。所々砂分多く混ず。	固っぽい			
	-1.29	8.15	0.70				粗砂	暗黄灰	細～中砂多く混ず。砂分多く。下部は10cm程度シルト層挟む。	中位			
	-1.99	8.85	2.05				小礫混じり粗砂	黄灰	1～10mmφ程度の礫。10.6～10.1m間、シルト質部分に。砂分多く。	中位			
	-3.99	10.85	0.85				シルト	暗灰	粗砂多く混入。所々砂分多く含む。	固っぽい			
	-4.79	11.65	1.10				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～細砂層挟む。	中位			
	-5.89	12.75	1.35				砂礫	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫。1～50mmφ程度の礫。フリッ、フユ状砂分。砂分多く。	密している			
	-7.19	14.05	2.43				シルト質砂	暗灰	粗砂層挟む。砂質シルト層挟む。16～16.1m間、シルト層に。	固い～中位			
	-9.59	16.45	1.43				中砂	暗黄灰	粗砂多く混入。砂分多く含む。	中位			
	-10.93	17.80	0.90				小礫混じり粗砂	暗黄灰	1～10mmφ程度の礫。砂分多く。	密している			
	-11.83 / -12.49	18.70 / 19.36	0.66				シルト質砂	暗黄灰	粗砂～細砂層挟む。砂分多く含む。	非常に固っぽい			
	-17.29	24.18	4.88				従属粘土	暗黄灰	粗砂多く混入。4.1m間、礫部多く混ず。固結している。	硬い			

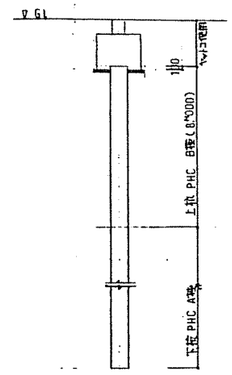
株式会社 佐藤総合計画

設計番号	J08-1689
工事名称	三重産業振興センター新築工事設計図
図面名	地質柱状図 (2)
縮尺	
作成日	3年11月
図番	105

一級建築士事務所 東京都知事 第33号　建設コンサルタント 東京都知事 第63-843号　(社)日本ボーリング協会会員



杭及び基礎伏図 1/200



杭要領

	杭要領		
杭種	PHCパイル 上杭B種, 下杭A種		
杭径	φ600 ∅	φ500 ∅	φ350 ∅
杭耐力	115 t/本	80 t/本	40 t/本
杭長	本図参照. (上杭 8,000+ 下杭 残り)		
杭本数	213 セット	56 セット	321 セット
試験杭			

1. 回転貫入杭埋込工法(25N Ap 認定工法)
2. 設計GL = 7,450 (標高)
3. 貸館外基礎下端は GL-1,700 とする.
4. Ⓑ~Ⓙ-Ⓓ~Ⓝ 通り間 基礎下端は GL-2,550 とする.

株式会社 佐藤総合計画

設計番号 JOB-1685	工事名称 三重産業振興センター新築工事設計図	縮尺 1/200
図面名 杭伏図		作成日 3年11月
監理	担当	作図

一級建築士事務所 登録番号 東京家第10332号 建設コンサルタント 登録番号 第63-843号 (社)日本"マンション"管理士会会員計画事務所

図番 106